

令和5・6年度 大分県租税教育推進協議会委嘱

租税教育公開研究発表会

研究紀要



友だちの思いを受け止め、
自分の思いを伝えられる子どもの育成
～共に課題解決をめざす学級集団づくり～

令和6年11月8日(金)

豊後大野市立三重東小学校

はじめに

『4つの花(あいさつの花・がんばりの花・思い合いの花・あんぜんの花)を咲かせましょう』
これは、本校が長年人権教育を大切に、子どもたちとともに、「何のために何をどのように頑張るのか」を考え行動する時の道しるべとなっている合言葉です。本校は、教育目標を「ふるさとを愛し、心身ともにたくましく 未来を切り拓く力をもった子どもの育成」と掲げ、この合言葉のもと、保護者、地域の方々と連携し、自分で考え行動することと、みんなで協力し合える関係づくりをめざして、教育活動を行ってきました。そのような中、令和5・6年度の2年間にわたり、大分県租税教育推進協議会より、租税教育研究校の委嘱をうけ、関係各位のご指導のもと研究・実践に取り組んでまいりました。

現行の学習指導要領改訂の基本方針の中に、「社会が急激に変化し、予測が困難な時代において、その変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力が重要である」と明記されています。今、子どもたちに求められることは、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働し、課題を解決していく資質・能力を身に付けることです。一人一人が自立し、家族や地域の人と共に支え合う生活を創造し、未来を切り拓いていくことが大切です。この教育課題に真摯に取り組むことは、租税教育のめざすところであるととらえています。

本校の租税教育においては、これまで本校が大切にしてきた人権教育を基盤として、研究主題を『友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子どもの育成～共に課題解決をめざす学級集団づくり～』と設定し、全ての教科・領域において研究を進めてまいりました。ふるさとを愛する心を育てるための「郷土学」、互いに協力し支え合う「集団の一員としての態度」、税そのものを学ぶ「税の学習」の視点から授業実践を行い、議論を深めてきました。ささやかな実践ではありますが、これらの研究の現状と成果を本誌によって皆様にお伝えすることができれば幸いです。また、本公開研究発表会にご参会の皆様には、多くの忌憚のないご意見をいただき、本校の今後の研究・教育活動に生かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、本校の研究の推進にあたり、これまでご指導ご助言をいただきました大分県租税教育推進協議会、大分県教育委員会、竹田教育事務所、豊後大野市教育委員会の皆様方、また多方面でお世話をいただきました大分税務署の広報広聴官の皆様及び三重税務署の皆様をはじめとする関係機関並びに各位に心より感謝申し上げます。

令和6年11月8日

豊後大野市立三重東小学校
校長 原田 悦子

令和5・6年度 大分県租税教育推進協議会委嘱
租税教育公開研究発表会
要 項

1 期 日 令和6年11月8日(金)

2 研究主題

友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子どもの育成
～共に課題解決をめざす学級集団づくり～

3 日 程

13:00～13:15	13:15～13:50	14:00～14:45	15:00～15:40	15:50～16:10
受付 はいだてホール	開会行事	公開授業	研究協議	閉会行事

4 開会行事

- (1) 開会のことば
- (2) 校長あいさつ
- (3) 来賓あいさつ

大分県教育庁義務教育課 課長 小野 勇一
豊後大野市教育委員会 教育長 下田 博

- (4) 来賓紹介
- (5) 研究の概要
- (6) 閉会のことば

5 公開授業

学 級	授業者	教 科	単元名	助言・指導者
3年1組	衛藤 直哉	社 会	地いきの安全を守る	豊後大野市教育委員会指導主事 岡田 亮二
5年2組	阿南 龍生	体 育 (保健領域)	けがの防止	竹田教育事務所次長 後藤 直子

6 研究協議・閉会行事

- (1) 公開授業について
- (2) 協議
- (3) 指導・講評 大分県教育庁義務教育課義務教育指導班 指導主事 小野 智博
- (4) 謝辞
- (5) 閉会のことば

目次

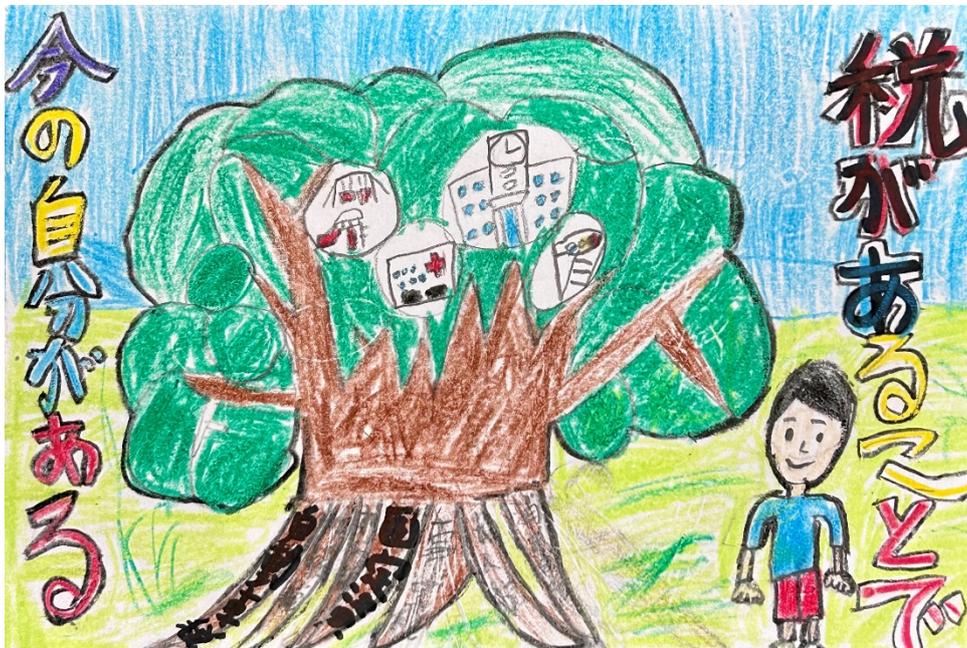
はじめに

I	研究の概要（研究全体構想）	1
1	研究主題と主題設定理由	2
2	研究組織	4
3	研究内容	5
4	研究方法	5
5	租税教育	6
	（1）租税教育全体計画	6
	（2）租税教育年間指導計画	7
6	研究経過	13
	（1）1年次	13
	（2）2年次	14
II	研究の具体的構想	15
1	授業づくりの視点	15
2	対話を生み出す場の設定	15
III	研究実践	16
1	互見授業と提案授業	16
	（1）1年次	16
	（2）2年次	41
2	対話を生み出す場の設定	53
3	租税教室	55
IV	研究の成果と課題	61

おわりに

研究同人

I 研究の概要



I 研究の概要（研究全体構想）

「学校の教育目標」

ふるさとを愛し、心身ともにたくましく 未来を切り拓く力をもった 子どもの育成

児童の実態（課題）

- ・真面目で素直な子どもが多い
- ・授業や行事に熱心に取り組む
- ・優しい子どもが多い

- ・話を最後まで聞かず、指示が通らないことが多い
- ・友だち関係が限定的になっている
- ・発表（自分の考え）に自信が持てない

【研究主題】

友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子どもの育成
～共に課題解決をめざす学級集団づくり～

めざす育成の資質・能力

- 自分で考え行動する力
- 感謝する心

研究内容

- ① 授業づくりの視点・・・課題の質、集団の一員としての態度（租税教育に関わって）、教師の出方の工夫、学習環境整備、学習規律、東小スタイル、対話的に学び合う子どもを育成するための学習活動のあり
- ② 対話を生み出す場の設定・・・なかよし班（縦割り班）活動を中心とした取り組み、人間関係づくりプログラムの実施、係・委員会活動

学力向上プラン

- すべての子どもが安心して参加し、「わかった・できた」を実感できる授業づくり
- 東小スタイルを生かした目標達成型授業の実施

東小スタイル

- ①ほめる・認める
- ②見通し・見える化
- ③刺激調整（視覚刺激・聴覚刺激）
- ④ペア・グループ・シェアタイムの活用

Ⅰ 研究主題と主題設定の理由

友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子どもの育成

～共に課題解決をめざす学級集団づくり～

(1) 主題設定の理由

本校では「ふるさとを愛し、心身ともにたくましく未来を切り拓く力をもった子どもの育成」を教育目標としており、日々の教育活動をすすめている。

本校の児童は、明るく素直な子どもが多く、委員会や係活動、授業や行事などに熱心に取り組んでいる。また、友だちとの関わりの中では、休み時間に外で楽しそうに遊んだり関わったりすることができている。一方で、発表する子どもが固定化されている、友だちとの関わりが限定的になってしまっている、優しい言動に限られた友だちに向けられたものになってしまっている、という実態があり、いつでも・どこでも・誰とでも子どもたちが主体的に学び合い、学びが実感できる授業づくりが課題として明らかになった。そこで、授業づくりの基盤になる「なかまづくり」を軸に全教科・全領域で指導法の工夫、改善の視点で研究を進めてきた。

また、本校では、なかよし班（縦割り班）活動を通した異学年交流にも積極的に取り組んでいる。1学期は競技性のある活動を主とした「なかよし集会」、2学期にはお店を企画運営する「お店集会」、年間を通して取り組む「フラワータイム（なかよし班での人間関係づくりプログラム）」、「なかよし班掃除」などさまざまな活動を行っている。6年生が班のリーダーになり、話し合いの司会を務め、活動が円滑に進むように計画を立てて実行している。学年間のつながりやなかまづくり、異学年との交流を大切にしながら自己肯定感を育む活動をしてきた。

このような教育活動を進めていく中、大分県租税教育推進協議会から「租税教育研究校」を委嘱され、本校の研究主題を考えていくこととした。大分県における租税教育は、「租税に関連した事項を通して郷土についての関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」ことをねらいとしている。本校で研究を進めていくにあたり、租税教育のねらいと本校の児童の実態、学校の教育目標との関わりから、「公民としての資質」に焦点化を図ることとした。「公民としての資質」を「人間尊重の精神を養い、お互い協力してよりよい集団生活の向上に努める態度」と捉え、子どもたちが授業や学校行事の中で互いに協力し、支え合いながら、より良い関係を築いていくことをめざし、本研究主題を設定した。

(2) 研究主題の捉え

友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられる

友だちの思いや考えていることを聴く。聴いた上で自分の考えを友だちに伝える。友だちの思いや考えを知ることができた喜びや自分の思いが相手に伝わった喜びを積み上げていく。思いや考えを適切な言葉で相互にやり取りをしていく経験が、誰とでも関われる友だち関係の構築に重要であると考えます。

共に課題解決をめざす学級集団づくり

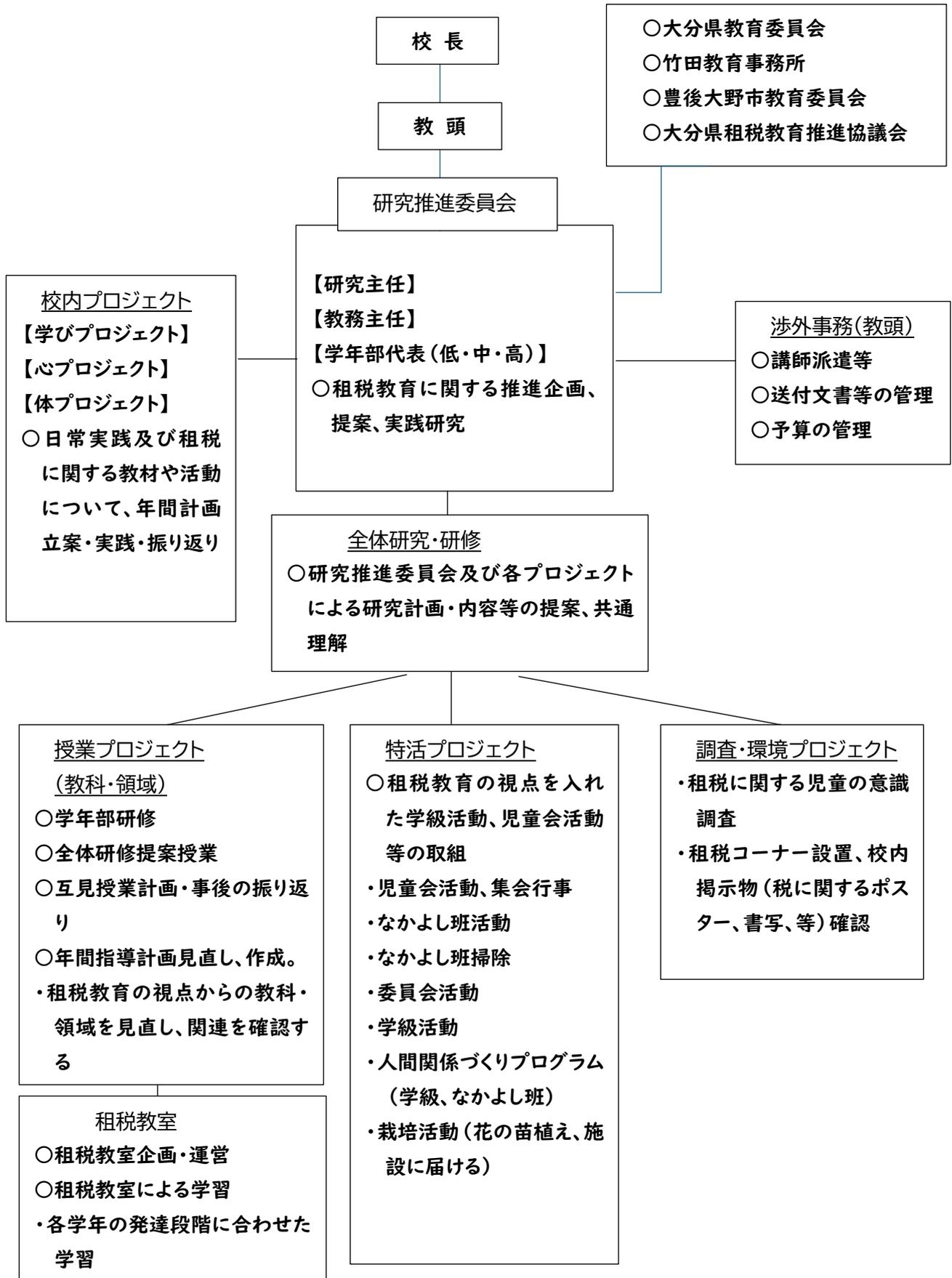
子どもたちは、登校後様々な活動の中で友だちと関わる場面がある。その中でも特に授業における友だち

との関わりは多くなり、必然的に学級での関わりが多くなる。1日に5～6時間の学習における友だちとの関わりを大切に、適切に話し合いを行い、課題を解決していく場面を設定する。

対話を生み出す場の設定として、学級・学年を中心とした取り組みとなかよし班（縦割り班活動）を中心とした取り組みを進めた。

2 研究組織

研究組織図(租税教育)



3 研究内容

<授業づくりの視点>

- ①課題の質
- ②集団の一員としての態度
- ③教師の出方の工夫
- ④対話的に学び合う子どもを育成するための学習活動のあり方
 - ・シェアタイムの活用・・・シェアタイムの設定場面の工夫
 - ・全体交流の活用・・・収束場面での教師の出方
- ⑤学習環境整備
 - ・学習規律
 - ・東小スタイル

<対話を生み出す場の設定>

- ・なかよし班（縦割り班）活動を中心とした取組
- ・人間関係づくりプログラムの実施
- ・係、委員会活動

4 研究方法

- ・子どもの実態把握・実態交流
 - アンケートと教師の観察、分析
- ・授業実践（日常実践と全体研究授業）
 - 全体研究授業（低学年部1本 中学年部1本 高学年部1本 合計3本）では、各学年部の代表者が租税教育における各学年の指導の重点目標のうち「集団の一員としての態度」の視点から授業をつくり、実践し、検証を行う。
- ・授業交流（互見授業）
 - 全授業者は、租税教育における各学年の指導の重点目標のうち「集団の一員としての態度」の視点から授業をつくり、実践し、互いに参観を行い、事後研をおこなう。

5 租税教育

大分県における租税教育のねらいから、本校で取り組む指導事項を3つに整理し、全体計画に位置付けた。

(1) 租税教育全体計画

【学校の教育目標】

ふるさとを愛し、心身ともにたくましく 未来を切り拓く力をもった 子どもの育成

【租税教育の目標】

- 地域への理解を深め、地域を大切にす心や態度を育てる。
- 集団や社会のことを考え、互いの良さを活かしたり補いあったりしながら主体的に行動する態度を育てる。
- 税に対する知識・理解を深める。

【児童の実態】

- 友だちに優しい子どもが多い。
- 学習に対して意欲的に取り組む子どもが多い。
- 基礎基本の力がついている子どももいるが、学力差がある。
- 発表する子どもが固定化しつつある。
- 時間を守ろうとする意識が低い。
- 友だち関係が、限定的になっている子どもがいる。

【研究主題】

友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子どもの育成
～共に課題解決をめざす学級集団づくり～

租税教育における各学年の指導の重点目標

	郷土学	集団の一員としての態度	税の学習
目標	地域への理解を深め、地域を大切にす心や態度を育てる。	集団や社会のことを考え、互いの良さを活かしたり補いあったりしながら主体的に行動する態度を育てる。	税に対する知識・理解を深める。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や行事を知り、楽しむことができる。 ・地域の人々が自分たちの生活に関わっていることを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が好きなことや得意なことを知り、できることを増やそうとする。 ・友だちの良さや違いに気づくことができる。 ・友だちと力を合わせて活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税の大切さを知る。 ・身の回りに公共物があることを知る。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化や伝統を知り、大切にしようとする。 ・地域の人々の思いや願いを知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さを活かし、さまざまな活動に意欲的に取り組む。 ・友だちの良さや違いを認めることができる。 ・互いの良さを活かし、友だちと協力して活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税の大切さを理解する。 ・公共の仕事や施設の大切さに気づく。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として自分たちができていることを考える。 ・地域の文化を守ってきた人々の努力や思いを知り、大切にしようとする気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さを伸ばそうとさまざまな活動に主体的に取り組む。 ・互いの良さや違いを活かし、より良い集団を作ろうとすることができる。 ・集団の中で自他の役割を認識して行動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・税の大切さを理解する。 ・税の仕組みを知り、その役割について考える。

租税教育を各教科・領域で指導していく。

租税教育に関して、特に重点を置いて指導する各単元は、年間指導計画に位置付ける。

特別活動

※特別活動を全ての指導の場を支える基盤として位置付ける。

(2) 租税教育年間指導計画

第1学年 租税教育 年間指導計画

	郷土学	集団の一員としての態度	税の学習
4月		道徳：みんなで たのしく 生活：わくわくどきどきしょうがっこう	算数：くらべたことがあるかな
5月	生活：きせつとなかよし はる	道徳：みんなでまもろう 国語：みんなにはなそう 算数：なかまとかず	
6月	道徳：がっこうまでのみち	道徳：がっこうたんけん 国語：きいてつたえよう 算数：あわせていくつ ふえるといくつ	生活：あんぜんなせいかつ
7月	道徳：まちたんけん 生活：きせつとなかよし なつ なつやすみをげんきにす ごそう	道徳：いいところさがし 国語：こんなことしたよ 算数：のこりはいくつ ちがいはいくつ	算数：どちらがながい
8月		国語：はなしたいな ききたいな	算数：わかりやすくせいりしよう 道徳：ルールがないと どうなるの？
9月	生活：なかよくなろうね 小さな ともだち	算数：10よりおおきいかず 道徳：ちゃんとのたつじん	
10月	生活：きせつとなかよし あき	国語：なにに見えるのかな 算数：たしざん 道徳：ぶうたのやくめ	算数：どちらがおおい
11月	道徳：もみじがり	道徳：はしのうえのおおかみ 国語：はっけんしたよ すきなきょうかをはなそう 生活：みんなであきをたのしもう	算数：かたちあそび
12月	生活：ふゆ休みを げん気にすご そう	国語：すきなおはなしなかな 算数：ひきざん	生活：みんなの1日をきいてみよう
1月	生活：きせつとなかよし ふゆ	国語：おはなしをかこう 算数：おおきいかず	
2月	道徳：ひしゃくぼし	国語：小学校のことをしょうかいしよう	算数：なんじ なんぶん
3月	生活：もうすぐ 2年生	道徳：もうすぐ二ねんせい	算数：かたちづくり

第2学年 租税教育 年間指導計画

	郷土学	集団の一員としての態度	税の学習
4月	生活:めざせ野さいづくり名人	道徳:学校たんけん 国語:風のゆうびんやさん 国語:たんぼぼのひみつをみつけよう 算数:たし算のしかたを考えよう	算数:わかりやすくあらわそう
5月	生活:まちが大すきたんけんたい	道徳:およげないりすさん・げんかんそうじわたしたちの学校 国語:名前を見てちょうだい 算数:ひき算のしかたを考えよう 体育:ボール投げゲーム	算数:長さをはかってあらわそう
6月		道徳:あいさつがきれいな王さま 国語:こんなことをしているよ 算数:100より大きい数をしらべよう	
7月	生活:めざせ野さいづくり名人	道徳:オリンピックとパラリンピックのはた 道徳:おかあさんとのやくそく	
8月		国語:みんなで話し合おう 算数:計算のしかたをくふうしよう 道徳:ジョゼくんとおりがみ	
9月	道徳:ぼくのまちも、ひかてる! 生活:えがおのひみつたんけんたい	道徳:力を合わせて 国語:ニャーゴ 算数:ひっ算のしかたを考えよう 体育:走の運動遊び	
10月	生活:えがおのひみつたんけんたい 道徳:ふるさときゅうしょく	道徳:のこぎり山の大ぶつ 国語:ビーバーの大工事	道徳:きれいになったぞうしつ
11月	道徳:はたけの先生 生活:えがおのひみつたんけんたい 国語:町でみつけたことをはなそう	国語:「ありがとう」をつたえよう 体育:ボール投げゲーム	国語:町でみつけたことをはなそう
12月		算数:新しい計算を考えよう(かけ算) 体育:ボールけりゲーム	
1月	道徳:ぼくはまっている	道徳:小さなできごと 道徳:きれいになったぞうしつ 算数:1000より大きい数をしらべよう 体育:ボール投げゲーム	
2月		道徳:一本のはし・とくべつなたからもの 道徳:モムンとヘーテ・ぐみの木と小鳥 国語:たからものをしょうかいしよう 算数:図をつかって考えよう 算数:分けた大きさのあらわし方をしらべよう	
3月		国語:かんそうをつたえ合おう 国語:お手紙 体育:ボールけりゲーム	道徳:花いっぱい、えがおいっぱい

第3学年 租税教育 年間指導計画

	郷土学	集団の一員としての態度	税の学習
4月	社会：わたしたちのまちと市 総合：校区探検	道徳：友だち屋 道徳：わたしのしたこと 道徳：四人五脚 算数：九九を見なおそう 国語：音読を聞き合おう	
5月	社会：わたしたちのまちと市 総合：校区探検	算数：同じ数ずつ分けるときの計算を 考えよう 算数：大きい数の筆算を考えよう 国語：メモを取りながら話を聞こう 体育：ネット型ゲーム	
6月	社会：わたしたちのまちと市 総合：校区探検	道徳：心の優先席 算数：重なりに注目して 国語：物語を短くまとめてしょうかい しよう	社会：わたしたちのまちと市 算数：記ろくを整理して調べよう
7月		算数：数をよく見て暗算で計算しよう 国語：書き手のくふうを考えよう	社会：市の様子
8月	道徳：キツネおどり	算数：10000より大きい数を調べよう 国語：案内の手紙を書こう	
9月	道徳：郷土かるた	算数：大きい数のかけ算のしかたを考えよう 国語：グループの合い言葉を決めよう	
10月		道徳：こまるのはだれ？これいいのかな 算数：わり算や分数を考えよう	
11月	社会：地域の安全を守る	道徳：ないた赤おに 道徳：ドッジボール 算数：数の表し方やしくみを調べよう 国語：話したいな、すきな時間	社会：地域の安全を守る
12月	社会：地域の安全を守る	道徳：太郎のいどう教室 算数：分数を使った大きさの表し方を 調べよう 国語：想ぞうしたことを伝え合おう 体育：ゴール型ゲーム	社会：地域の安全を守る
1月	社会：地域の安全を守る 総合：防災学習	道徳：おばあちゃんのおせち 算数：□を使って場面を式に表そう 算数：かけ算の筆算を考えよう 算数：倍の計算 体育：ゴール型ゲーム	社会：地域の安全を守る
2月	総合：防災学習 社会：わたしたちの市の歩み	道徳：いいまちがただけじゃないか 道徳：赤い灯 ゆれる 国語：道具のうつりかわりを説明しよう 国語：物語のしかけのおもしろさをつ たえ合おう	算数：わかりやすく整理して表そう
3月	総合：防災学習	国語：わたしのベストブック 体育：ベースボール型ゲーム	

第4学年 租税教育 年間指導計画

	郷土学	集団の一員としての態度	税の学習
4月	社会：わたしたちの県のまちづくり	国語：こわれた千の楽器 算数：1億より大きい数 道徳：貝がら	算数：グラフや表を使って調べよう 国語：図書館へ行こう
5月	総合：ゴミ問題と水問題（環境学習）	国語：ヤドカリとイソギンチャク 算数：わり算の筆算 体育：ネット型ゲーム	社会：健康なくらしとまちづくり（ごみはどこへ）
6月	道徳：ねがいをつみ上げた石橋	国語：走れ 算数：小数のしくみ 道徳：ブラジルからの転入生	社会：健康なくらしとまちづくり（水はどこから）
7月		国語：広告を読み比べよう 算数：小数のたし算とひき算	
8月	道徳：わたしのまちの「とっておき」	算数：わり算を考えよう	
9月		国語：一つの花 算数：わり算を考えよう 道徳：レスキュー隊	社会：自然災害にそなえるまちづくり
10月	社会：地域で受けつがれてきたもの 総合：福祉体験（車いす・アイマスク）	国語：くらしの中の和と洋 算数：およその数 計算の順序・きまり	
11月	社会：昔から今へと続くまちづくり	国語：ごんぎつね	
12月		国語：数え方を生み出そう 算数：分数のたし算とひき算 体育：ゴール型ゲーム	算数：どのように変わるか調べよう 理科：ものの温度と体積
1月	社会：わたしたちの県のまちづくり	国語：調べたことを報告しよう 道徳：ONE TEAM —ラグビー日本代表—	
2月		国語：世界一美しいぼくの村 算数：小数のかけ算とわり算 道徳：石油列車、東北へ向かって走れ！	理科：もののあたたまり方 理科：すがたを変える水
3月		体育：ベースボール型ゲーム 道徳：とべ！ペットボトルロケット	

第5学年 租税教育 年間指導計画

	郷土学	集団の一員としての態度	税の学習
4月		国語：おにぎり石の伝説 算数：整数と小数	
5月		国語：インターネットは冒険だ 算数：小数のかけ算 理科：生命のつながり① 道徳：助け合い傘	算数：変わり方を調べよう
6月	社会：未来を支える食糧生産 総合：農業と食について	国語：世界でいちばんやかましい音 算数：小数のわり算 理科：生命のつながり② 体育：心の健康(保健領域)	
7月	理科：天気と情報	国語：新聞記事を読み比べよう	
8月		算数：分数と小数、整数の関係を調べよう	
9月	道徳：世界の文化遺産 総合：園児との交流	国語：注文の多い料理店 算数：分数と小数、整数の関係を調べよう 理科：生命のつながり③	算数：整数の性質を調べよう 家庭科：持続可能な社会へ、物やお金の使い方
10月	総合：農業と食について	国語：和の文化を受けつぐ 算数：分数のたし算・ひき算を広げよう 道徳：約束	算数：平均 体育：けがの防止(保健領域)
11月		国語：大造じいさんとがん 道徳：ドッジボールを百倍楽しくする方法	算数：比べ方を考えよう①
12月	道徳：シンボルマークに込められたものは	社会：未来とつながる情報	
1月	社会：自然災害とともに生きる	国語：弱いロボットだからできること 道徳：ミレーとルソー	算数：比べ方を考えよう②
2月	社会：森林とともに生きる 総合：園児との交流	国語：資料を見て考えたことを話そう 理科：生命のつながり④ 道徳：ふるさと一六年生を送る会—	
3月	社会：環境をともに生きる	国語：手塚治虫	社会：環境をともに生きる

第6学年 租税教育 年間指導計画

	郷土学	集団の一員としての態度	税の学習
4月		道徳：一年生のお世話係 ～アフター・ユー～ 理科：ものの燃え方 国語：さなぎたちの教室	社会：ともに生きる暮らしと政治
5月	社会：わたしたちの暮らしを支える政治	算数：文字と式 道徳：松井さんの笑顔 国語：イースター島にはなぜ森林がないのか 総合：修学旅行の計画 算数：分数の掛け算を考えよう	国語：防災ポスターをつくろう 社会：わたしたちの暮らしを支える政治
6月	社会：国づくりへの歩み	算数：分数の割り算を考えよう 道徳：温かいおまんじゅう 国語：風切るつばさ	道徳：マナーからルールへ、そしてマナーへ
7月	道徳：広村堤防の清掃ボランティア	道徳：世界がおどろく七分間清掃 国語：風切るつばさ	社会：大陸に学んだ国づくり 算数：割合
8月		道徳：マナーからルールへそしてマナーへ	算数：データの特ちょうを調べて判断しよう
9月	道徳：棚田と人をつなぐ	道徳：いなくなったきまり 国語：模型のまち	算数：データの特ちょうを調べて判断しよう 社会：全国統一の動き
10月		道徳：ブランコ乗りとピエロ 理科：水溶液の性質 国語：「永遠のゴミ」プラスチック	社会：幕府の政治と人々の暮らし 算数：比例の関係を詳しく調べよう
11月	道徳：これが日本 総合：ジオパーク見学	道徳：命のおにぎり	算数：比例の関係を詳しく調べよう
12月	道徳：これが日本	理科：てこのはたらき 国語：海のいのち	算数：データを使って生活を見なおそう。
1月	道徳：地球があぶない	理科：私たちの生活と電気 国語：宇宙への思い	社会：近代国家をみざして
2月		道徳：めざせ、百八十回！ 道徳：最後の一葉	
3月	総合：感謝の気持ちを込めて ～卒業式に向けて～ 国語：聞いてほしいこの思い	社会：地球規模の解決と国際協力	

6 研究経過

(1) 1年次

令和5年度(1年次)・研修の経過

月	日	回数	研修内容
4	19	1	2022年度の振り返り シェアタイム 年間研修計画 板書・授業・指導計画 2023年度の研究について
5	10	2	単元計画 租税教育について
5	17	3	児童の実態把握 シェアタイム
5	24	4	租税教育について 児童の実態交流
6	7	5	研究テーマについて 授業づくりの視点 租税教育の視点
6	14	6	保健研修
6	21	7	授業の振り返り 人権・部落差別解消教育研修
7	26	8	租税教育年間指導計画 授業研(全体研・互見授業)について 人権・部落差別解消教育研修 防災教育研修
8	6	9	振り返りシートについて 租税教育全体計画 めざす子どもの姿 研究方法 研究内容 年間指導計画
8	22	10	ICT研修 特別支援研修 生徒指導研修 外国語研修 学校問題スキルアップ研修 全体計画・授業研日程 指導案について 年間指導計画
10	11	11	5年生研究授業 指導案審議 租税教育の視点
10	18	12	租税教室について 研究授業について
11	1	13	研究授業① 高学年部 5年阿南教諭 国語科 事後研 互見授業について
11	8	14	租税教室について 互見授業について 指導案について
11	15	15	国東市立安岐中学校 租税教育研究発表の還流 2年生研究授業 指導案審議
11	20	16	研究授業② 低学年部 2年矢野教諭 国語科 事後研
12	20	17	2学期までのまとめ ICT研修
1	10	18	4年生研究授業 指導案審議 板書 共有ノートについて 互見授業について
1	17	19	4年生研究授業 指導案審議 授業力向上アドバイザーより 学年部研
1	24	20	学年部研 教育課程編成作業 互見授業指導案作成 租税教育年間指導計画見直し
2	7	21	研究授業③ 中学年部 4年戒田教諭 体育科 事後研
2	21	22	学年部研 教育課程編成作業 学テ分析 租税教育年間指導計画見直し
3			2023年度 租税教育1年目 研究紀要作成・完成

(2) 2年次

令和6年度(2年次)・研修の経過

月	日	回数	研修内容
4	4	1	租税教育について 板書、授業の流れについて シェアタイムについて
4	10	2	租税教育全体計画について 年間指導計画作成について 研修計画
4	17	3	授業づくりの視点について 互見授業・提案授業について
5	15	4	4年生国語 指導案審議①
5	22	5	4年生国語 指導案審議②
5	29	6	4年生国語 授業研 事後研
6	12	7	シェアタイムについて
6	18	8	シェアタイムについて
7	24	9	ICT研修 人権研修 外国語研修
8	2	10	生徒指導研修 特別支援研修 防災研修 保健研修
8	6	11	全体研指導案審議①
8	21	12	全体研指導案審議②
9	4	13	セルフチェックシートの取り組み、シェアタイムについて 指導案審議
9	18	14	学年部研 指導案審議、セルフチェックシートの振り返り
10	2	15	学年部研 指導案審議
10	9	16	学年部研 指導案審議

Ⅱ 研究の具体的構想



II 研究の具体的構想

I 授業づくりの視点

① 課題の質

本校では、2年前から対話的な授業の展開のあり方について研究を進めている。昨年度の反省から授業においてより対話的な展開を望むためには、課題の質の高さが課題だと見えてきた。質の高い課題を「子どもが引き受け、考えたくなる課題」や「子どもから生まれる課題」と捉え、課題の文言にも着目していく。

② 集団の一員としての態度

昨年度の提案授業において、「集団の一員としての態度」を協議の柱の1つとして挙げて研究を進めた。しかし、事後研における「集団の一員としての態度」を見とる視点（子どもの具体的な姿）が定まっていなかったことで、深まりの見られにくいものになっていた。今年度は、「集団の一員としての態度」における視点として、授業者が「いつ・どんな姿（言葉や行動）」を期待するのかを明確にした上で、授業を組み立てていくこと、また、指導案にもそれらを明記し、授業者の意図が伝わりやすいものにしていくことを共通認識し、実践していく。

③ 教師の出方の工夫

授業者の声かけや指導の有無は、学級経営と密接に関わり、授業を展開する上で重要な要素である。子どもたちどうしをつなぐ声かけや考えを引き出す声かけ、また、敢えて俯瞰して学級の様子を見ることなど、教師の出方を意識的に工夫していく。

④ 対話的に学び合う子どもを育成するための学習活動のあり方

- ・シェアタイムの活用
- ・全体交流の活用

授業において、本校の課題である子どもたちの人間関係をよりよいものにしていこうと、実践研究している。

⑤ 学習環境整備

- ・学習規律
- ・東小スタイル

2 対話を生み出す場の設定

① 学級・学年を中心とした取組

学級経営を中心にして、一人一人が役割を担い行なう係活動や委員会活動（委員会活動は5・6年生）。誰とでも関われる人間関係の構築をめざしたシェアタイムや人間関係づくりプログラムにおける対話的活動。学級の中に自身の存在を確立でき、自己存在感を感じられ、自己有用感を持てるものとして再確認し、これらの活動に全ての学級で取り組む。

② なかよし班（縦割り班活動）を中心とした取組

本校では、6年生をリーダーとしたなかよし班（縦割り班）活動が盛んである。5月に結団式を行い、3月の解団式まで班対抗のスポーツ大会や運動会、お店集会、なかよし班掃除、あいさつ運動など様々な活動を行っている。どの行事でも6年生がリーダーとなって話し合いを進めており、異学年での交流を大切にしている。

なかよし班活動をより対話的に、どの子どもも自分の良さに気づけるように、考え実施している。今年度は、教師の関わり方を工夫したり、振り返りの際に班の友だちの良かったところや頑張っていたところをお互いに伝えるようにしたりしていく。

Ⅲ 研究実践



Ⅲ 研究実践

Ⅰ 互見授業と提案授業

(1) 1年次

全体研 研究授業

研究授業において、「なかまづくり」の視点を引き継ぎながらも①本時の評価規準②集団の一員としての態度③教師の声かけ・出番による子どもたちの話し合いの変化を協議の柱として位置付け授業研究を行ってきた。以下は、各指導案と成果と課題を記したものである。

①高学年

第5学年 国語科学習指導案

授業者 阿南 吉浩

2023.11.1(水) 2校時

1 単元名 大造じいさんとがん

2 租税教育の視点

【集団の一員としての態度】

- ・互いの良さや違いを活かし、より良い集団を作ろうとすることができる。
- ・集団の中で自他の役割を認識して行動することができる。

3 単元目標

- ・「大造じいさんとがん」と並行読書で読んだ椋鳩十作品を中心人物の「何が・どう・なぜ・どこで決定的に」変容したのかをもとにして一文で表すことを通して、主題を読み取ることができる。
- ・協調学習の手法を用いて、「大造じいさんとがん」と並行読書で読んだ椋鳩十作品との主題に共通点があるかを考えることができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。① ((1)ア) ・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。② ((1)カ)	・「読むこと」において、文書を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。① (C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。② (C(1)カ)	・進んで、物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。① ・進んで、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習課題に沿って考えたことを報告しようとしている。②

5 指導の立場について

(1) 教材について

「大造じいさんとがん」は、大造じいさんが昔の体験を語るという形式で始まり、3年にわたる知恵比べを描いた作品である。はじめは残雪のことを敵（獲物）としか認識していなかった大造じいさんは、繰り返される知恵比べを経ることで、残雪の頭領としての優れた力量を認めざるを得ないようになってくる。

そして、大造じいさんの残雪に対する思いは、おとりのがんさえも仲間と認め、そのためにはやぶさとの戦いで傷つき、最期の時を迎えようとしてもなお、頭領としての威厳を保とうとする残雪の姿を目の当たりにするこ

とをクライマックスとして、「えらぶつ」と呼ぶ正々堂々と戦うべき好敵手へと大きく変化する。「大造じいさんとがん」は、これらの変化を中心人物（大造じいさん）と対人物（残雪）の言動や情景描写からとらえることができる優れた作品である。また、単元を通して追求する課題「共通の主題は、あるだろうか。」を解決する手立てに協調学習の手法を用いる。その教材として、「栗野岳の主」（椋鳩十動物童話集第4巻36P）、「片耳の大しか」（4年生の童話②30P）、「底なし谷のカモシカ」（5年生の童話①27P）を並行読書材を使用する。

（2）児童について

年度当初5年生には、物語を学習する目的は、「人の生き方を学ぶため」であり、そのためには、中心人物の「何が」「どう」「なぜ」「どこで決定的に」変わったのかを読み取り、それを「～（中心人物）が～に（最も大きな事件）によって～（変容）になった話」という一文で表すことが重要であることを話した。また、全員が同じ土俵に立って話し合いができる手立てとして「物語の用語 2023」（別紙参照）を配付した。これらをもとにして、5年生は、これまでに「だいじょうぶだいじょうぶ」、「世界でいちばんやかましい音」、「注文の多い料理店」の3つの物語教材を学習してきた。まず、「だいじょうぶだいじょうぶ」では、単元を通して考え続ける課題を「どんな一文で表せるか。」にして授業を展開した。子どもたちとともにまとめた一文は、「自信がなかったぼくが、おじいちゃんの『だいじょうぶだいじょうぶ』の言葉によって、心が成長した話」になった。次に、「世界でいちばんやかましい音」では、単元を通して考え続ける課題を「主題は何か。」にして授業を展開した。その中では、一文で表す活動を3人から4人でつくった12のグループで考えさせ、それをまとめた一文は、「世界で一番やかましいガヤガヤの都で最もやかましい王子様が、おくさんの悪気のない一言が世界中に広がり静かな音を初めて聞いたことによって、静けさと落ち着きが好きになった話」になった。さらに、その一文をもとにして主題を一人ずつ原稿用紙に書いた。多くの子どもが一定量の文章を書くことはできたが、主題に迫る読みができていない児童は、2割ぐらいだった。「注文の多い料理店」では、ワークプリントを用いたが、単元の展開は基本的に「世界でいちばんやかましい音」を踏襲し、単元を通して考え続ける課題を「主題は何か。」にした。子どもたちが書いたワークプリントを見ると、友だちと意見交流をした後の方が、読み取りが深くなっていた。また、主題に迫る読みができていない子どもの割合は、「世界でいちばんやかましい音」より若干増えた。しかし、学級全体として読みの力が伸びたとは言いがたい状況である。

（3）指導について

国語は、究極の繰り返し教科と言われている。それが、物語文では、中心人物の変容を読み取ることを通して主題に迫り、人の生き方を学ぶことだと考えている。これを子どもたちに意識づけるためこれまで、どうしても教師主導の展開に終始してきた。今回の公開授業でも、単元を通して考え続ける課題（「4つの椋鳩十作品に共通の主題（テーマ）は、あるだろうか。」）の設定は、従来通り教師が行い、単元のゴールを「4つの椋鳩十作品に共通の主題（テーマ）は、あるだろうか。」に対する各自の考えを原稿用紙1枚程度の文章に表すことにする。そして、租税教育における指導の重点目標である「集団の中で自他の役割を認識して行動することができる」の達成をめざして、「一人ひとりの役割分担の明確化」と「一人ひとりが納得するまで考えられる自由度を保証」するために協調学習（別紙参照）を取り入れる。第1次では、まず、単元を通して考え続ける課題とゴール及び単元の進め方を子どもたちに提示する。その際には、並行読書教材（「片耳の大シカ」「底なし谷のカモシカ」「栗野岳の主」）を「マイ鳩十ブック」として紹介する。さらに、ワークプリント（別紙参照）をもとにして、物語文の読み方を再確認する。その後、「大造じいさんとがん」を教師が音読し、意味調べを全員で行う。第2次では、3人から4人で編成した12グループで学習を行い、「大造じいさんとがん」と担当の「マイ鳩十ブック」をワークプリントに従って、「設定」（いつ・どこで・中心人物・対人物・人物関係図）「クライマックスの一文」「中心人物の変容を表した一文」「主題」を読み取る。第3次では、再編成した12グループで意見交流を行う。まず、

「大造じいさんとがん」を持ち寄った個人の意見を交流しながら、より深い読みでのワークプリントを作り上げていく。その後、考えを出し合い、主題以外は、学級の考えをまとめていく。第4次では、まず、学級全体でまとめた「大造じいさんとがん」の「中心人物の変容を表した一文」をもとにして、グループで「大造じいさんとがん」の主題を考える。次に、個人学習で読み取ったそれぞれの「マイ鳩十ブック」をワークプリントを示しながら紹介し合う。さらに、単元を通して考え続ける課題（「4つの椋鳩十作品に共通の主題（テーマ）は、あるだろうか。」）に対するグループでの考えをまとめる。（本時）第5次では、全体交流を行い、単元を通して考え続ける課題について、それぞれのグループの考えを対比し、共通点と相違点を明確にしたうえで、一人ひとりに再度課題の答えを問う。それを、最後にひとまとまりの文章に書かせる。この課題に対する答えは、「主題」が主観的なものであるという定義から「オープンエンド」だと考えている。

6 指導の評価の計画（全12時間）

時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次 2時間	① 単元を通して考え続ける課題を知る。 物語の読み方を再確認する。 単元の進め方を知る。 ② 教師の音読を聴き、難語句の読みと意味が分かる。	知① 知②
第2次 4時間	③④ワークプリントを用いて個人学習で、「大造じいさんとがん」を読み取る。 ⑤⑥ワークプリントを用いて個人学習で「マイ鳩十ブック」を読み取る。	思① 思①②
第3次 3時間	⑦グループ学習で「大造じいさんとがん」を読み深める。 ⑧⑨全体交流で「大造じいさんとがん」の読みをまとめる。	知②思② 主②
第4次 2時間	⑩グループ学習で、個人学習で読み取った「マイ鳩十ブック」の内容を交流する。 ⑪グループ学習で、「四つの椋鳩十作品に共通の主題があるか。」を考える。（本時）	思① 主②
第5次 2時間	⑫全体交流で、「四つの椋鳩十作品に共通の主題があるか。」を考える。 ⑬「四つの椋鳩十作品に共通の主題があるか。」に対する自分の考えを文章に表す。	思② 主①

7 本時案（11/13）

(1) 題目 「四つの椋鳩十作品に共通する主題の有無」

(2) 主眼 グループ学習で、個人で考えた「大造じいさんとがん」の主題と「マイ鳩十ブック」の主題が、文章事実に照らして適切であるかどうかを吟味し、さらにそれらの主題を対比しながら、共通点と相違点を共有することを通して、「4つの椋鳩十作品に共通な主題はあるだろうか。」に対する答えを導くことができる。

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考（評価規準）
1 本時の課題と学習の流れを確認する。		めあて「マイ椋鳩十ブック」を紹介し合いながら、共通の主題があるのかを考えよう。	
	2	○単元を通して考え続ける課題を確認するとともに、本時が単元全体のどこに位置づいているかも確認する。	
		課題「4つの椋鳩十作品に共通の主題（テーマ）は、あるだろうか。」	

<p>2 グループで「大造じいさんとがん」の主題を考え、発表する。</p>	<p>18</p>	<p>○本時は、グループ学習を行なうこと。そして、まず、「大造じいさんとがん」の主題を考え、さらに発表した後で、マイ鳩十ブックの作品に共通な主題があるかを考えて、最後にグループごとに課題の答えを発表し合うことを知らせる。</p> <p>○まず、「大造じいさんとがん」の「クライマックス一文」と「大造じいさんの変容を表した一文を確認する。その後、それをもとにして「主題」を考えさせる。その際に、文章事実からの根拠を明確にすることも指示する。</p> <p>○グループごとに考えた主題を仲間分けしながら位置付ける。 (予想される主題) ・動物の知恵の深さ ・仲間を守ろうとする使命感 ・動物に対する尊敬の気持ち ・リーダーの威厳</p>	<p>思①</p>
<p>3 グループで課題の答えを考える。</p>	<p>20</p>	<p>○考える方法として、3冊のマイ鳩十ブックの「主題」を1冊ずつ決め、それを「大造じいさんとがん」で考えた「主題」と対比していくようにさせる。また、グループでの話し合いをまとめるワークプリントを準備する。</p> <p>○①「底なし谷のカモシカ」②「片耳の大しか」③「栗野岳の主」の順でマイ鳩十ブックを考えるように指示する。 (予想される主題) 「底なし谷のカモシカ」 ・動物の知恵の深さ ・仲間を守ろうと使命感 ・動物に対する尊敬の気持ち ・リーダーの威厳 「片耳の大しか」 ・動物の知恵の深さ ・仲間を守ろうとする使命感 ・動物に対する尊敬の気持ち ・リーダーの威厳 「栗野岳の主」 ・家族を守ろうとする使命感 ・動物の知恵の深さ ・リーダーの威厳</p>	<p>思②</p>
<p>まとめ (例) ある。理由は、〜〜だからだ。</p>			
<p>4 学習を振り返る。</p>	<p>5</p>	<p>○最後に、グループごとに課題の答えを問い、黒板に位置付ける。さらに、次時は、課題に対する考えを全体交流でより深めていくことを伝え、本時の振り返りをする。</p>	

研究授業のまとめ

検証されたこと

単元を通して追求し続ける課題を、「椋鳩十作品には共通した主題があるか」に設定した。子どもたちは、並行読書で読んだ椋鳩十の作品の主題を読み比べることで、自分の考えを持ち友だちと意見を出し合い、活発な話し合いを行っていた。課題に「対立場面」(AかBかと問うこと)を設定することで、子どもは考えの裏付け(根拠)を本文から探し、考えを深めることができた。

租税教育の視点として、「互いの良さや違いを活かし、より良い集団を作ろうとすることができる」「集団の中で自他の役割を認識して行動することができる」を挙げていたが、グループを構成する子どもは、個人学習で違う作品の主題を考えていたため、必然的に話し合う場面が設定されていた。個人の意見を持ち寄り、グループで協議することで友だちの意見を聴き自分の意見を伝える場面が適切に設定されていた。

グループごとに授業記録を取る職員を設定したことで、教師の発言に対する子どもの反応（思考・発言）が可視化された。

②低学年

第2学年 国語科学習指導案

2年1組

授業者：矢野 あゆみ

2023.11.20（月） 2校時

1 単元名 お話を讀んだかんそくを、お手紙でかえるくんにつたえよう

教材名 お手紙（アーノルド・ローベル、文化出版局）

2 租税教育の視点

【集団の一員としての態度】友だちの良さや違いに気づくことができる。

3 単元目標

・文の中における主語と述語との関係に気づくことができるようにする。

〔知識及び技能〕（1）言葉の特徴や使い方に関する事項 カ）

・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができるようにする。

〔思考力・判断力・表現力等〕（C読むこと（1）エ）

・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持つことができるようにする。

〔思考力・判断力・表現力等〕（C読むこと（1）オ）

・進んで物語の人物の気持ちについて想像を広げ、物語を讀んで感想を持とうとするようにする。

〔学びに向かう力・人間性等〕

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中における主語と述語との関係に気づいている。(1)カ	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。(C(1)オ)	①進んで物語の人物の気持ちについて想像を広げ、物語を讀んで感想を持とうとしている。

5 指導の立場

(1) 児童について

本学級の児童は、図書の日や隙間時間に進んで読書をしており、様々な作品との出会いを楽しんでいる。国語の物語文ではこれまでに、「風のゆうびんやさん」「名前を見てちょうだい」「ニャーゴ」を学習してきており、「風のゆうびんやさん」と「名前を見てちょうだい」では言語活動を音読や動作化とし、登場人物の様子を声や動きで表してきた。「ニャーゴ」では、それぞれの場面で出てくる「ニャーゴ」を言葉で言い換える活動を通してねこの気持ちの変化を追っていった。登場人物の気持ちを想像し、表現することが好きな児童は多いが、想像する根拠となる言葉を本文から見つけ、叙述と結び付けて想像する力には個人差が大きく、

全体としてまだ十分ではない。

また、シェアタイムなどの活動では、お互いの考えを言い合って終わる現状があり、友だちとのやり取りを通して相手と自分の考えを比べたり、自分の考えを深めたりするまでには至っていない。

(2) 教材について

本単元では、登場人物の行動や会話に着目し、登場人物を自分に置き換えて考えることで物語を読んだ感想を深めていく。

教材文「お手紙」は、がまくんとかえるくんの二人の関係を描いた物語であり、お手紙がほしいがまくんと、なんとかしてあげたいと行動するかえるくんの温かい心の交流が表現されている。二人のやりとりを中心に書かれており、二人の行動や会話に着目することで、様子や気持ちを想像しながら読むことができる。また、児童にとって、がまくんとかえるくんの微笑ましいやりとりや、かえるくんの相手を想う優しい気持ちには共感できる部分が多く、自分に置き換えて考えやすく親しみやすい作品である。

(3) 指導について

指導に当たっては、単元を通してかえるくんに焦点を当て、かえるくんの行動やがまくんとの会話から、気持ちを想像する展開とする。その際、「自分だったらどんな気持ちになるか」と自分に置き換えて考えることでかえるくんの気持ちを想像しやすくするとともに、自分と友だちの考えを交流することで、個々の考えの幅を広げていきたい。活動の積み重ねにより物語の読みを深め、言語活動として、物語を読み深めた感想をかえるくんへのお手紙という形で表現させていく。

第一次で単元の学習の見通しを持たせ、物語全体の流れをつかませる。第二次では各場面でのかえるくんの行動を取り上げ、その時のかえるくんの気持ちをワークシートに書かせていく。ワークシートには、気持ちを書いた後、どうしてそう考えたのか理由を書かせるが、その時、「本文にこう書いてあるから」「自分だったらこんな気持ちになるから」の視点を与える。その後シェアタイムをとり、友だちと同じところや違うところに目を向けながら考えを交流させる。その後全体交流をする中で、似ている考えをつなげながら発表させ、板書に位置付けていくことで、かえるくんの気持ちをより深く想像できるようにしたい。第三次では、読み深めてきた感想を出し合い、かえるくんへのお手紙の形へとつなげていく。

租税教育の視点としては、「友だちの良さや違いに気づくことができる。」ことに重点を置く。シェアタイムや全体交流の際に、互いの考えの良さや違いを共感的に受け止められる児童と学級の育成をめざし、様々な場面での児童の共感的な姿や言葉を取り上げて褒め、全体に広げていくことを積み重ねていきたい。

6 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	主な学習活動	評価規準
1	1	初発の感想をもち、学習の見通しをもつ。	主①
	2	物語全体の流れをつかむ。	知①
	3	場面分けを捉える。	知①
2	4	第1場面で、かえるくんが悲しくなった気持ちを想像する。	思①②
	5	第2場面で、手紙をかたつむりくんにお願いしたかえるくんの気持ちを想像する。	思①
	6	第3場面で、何度もまどの外を見るかえるくんの気持ちを想像する。	思①

7 本時	7	第4場面で、手紙を出したことを言ったかえるくんの気持ちを想像する。	思①
	8	第1場面と第4場面で、手紙を待つかえるくんの様子の違いから、気持ちの変化を想像する。	思①②
	9	第5場面で、手紙を受け取るがまくんを見守るかえるくんの気持ちを想像する。	思①②
3	10	物語を読んだ感想を伝え合う。	主①
	11	かえるくんにお手紙を書く。	思②
	12	学習の振り返りをする。	主①

7 本時案（7／12）

（1）本時のねらい

手紙を書いたことを打ち明けたかえるくんの気持ちを、これまでの2人の会話や行動に着目したり、「自分だったらどんな気持ちになるか」を考えたりする活動を通して、想像することができるようにする。

（2）本時の評価規準

場面の様子に着目し、登場人物の気持ちを具体的に想像することができる。【思考・判断・表現】

（3）展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考・評価
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	5	○本時のめあてを確認し、これまでのがまくんとかえるくんの行動やみんなで考えた気持ちを振り返らせた後、4場面を音読させる。 めあて がまくんとかえるくんの気持ちを考えよう。	
2 かえるくんが手紙を書いたことを言った気持ちを考える。	8	○かえるくんが手紙を書いたことを言った場面を取り上げ、3場面までの気持ちをおさえたうえで、「かえるくんはどんな気持ちで言ったのか、かえるくんになって考えてみよう」と投げかけてワークシートに書かせる。 課題 かえるくんはどんな気持ちで言ったのかな。 (予想される児童の反応) ・がまくんあきらめないで。 ・これいじょうかなしんでいるのを見たくない。 ・本当は言いたくないけど、言うしかない。 ・手紙はとどくよ。だからあんしんして。 ・考えがもてない児童には、第3場面では言わずにはげましていたかえるくんの姿を既習内容の掲示から気づかせ、それなのになぜここで言ったのか問うことで考えをもたせる。 ・考えがもてない児童には、「自分がかえるくんだったらどうする」と問うことでかえるくんの気持ちに寄り添えるようにする。	思① ワークシート

3 かえるくんのがまくんへの思いを考え、まとめる。	22	<p>○シェアタイムで考えを交流させたうえで全体の場で交流させ、似た考えどうしを囲んで板書に位置付けることでまとめへとつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなになしそうながまくんを見たくない。 ・はやく元気にしてあげたい。 ・本当にとどくから、お手紙をまっけてほしい。 ・ぼくがいるよ。 ・「早く」のキーワードが出ずに、「元気にしてあげたい」等の言葉が出た時には、「待っていればお手紙がとどくから元気になるよ。」と揺さぶることで、ここで言うしかなかったかえるくんの気持ちまで深める。 ・「親友」や「親愛なる」のキーワードが出ない時には、「かえるくんは、なぜそこまでがまくんのことを思ってくれるんだろう。」と投げかけることで引き出し、深める。 	
<p>まとめ (例)かえるくんは(かなしむがまくんを少しでも早く元気になりたい)気持ちで言うことにした。</p>			
4 かえるくんの行動によるがまくんの気持ちの変化を考える。	5	<p>(例) (親友のがまくんがこれいじょうかなしむのを見たくない)</p> <p>○かえるくんの言葉を聞いて、がまくんがどんな気持ちだったと思うか問うことで、気持ちの大きな変化に気付かせる。</p>	思① ワークシート
5 本時の振り返りをする。	5	○本時で学んだことをワークシートに記入後、発表させる。(振り返りの視点：A)	

研究授業のまとめ

検証されたこと

租税教育の視点【集団の一員としての態度】「友だちの良さや違いに気づくことができる」で教材研究を図った。また、児童の実態から対人物である「かえるくん」の立場で単元を貫く課題を設定した。これを全員で共有し、検証が、授業記録をもとにでき、日ごろの授業改善に還元できた。

本時の終わりに「でも…かえるくんは何もされていない…！」という意見から「友だちがうれしい…が、自分もうれしいこと」という意見がでたことは、子どもたちに集団の一員としての意識の高まりを感じた。事後研では、これを「本時まとめ」に使ってもよかったのではないかという意見が多く出された。

シェアタイムについてその役割を確認した。2022年度から全校で取り組みをスタートさせたシェアタイムだが、今までは「意見を広げ出し合う、考えを持てるようにする」ことに活用されることが多くどの学級でも取り組んでいた。そこで今までの活用方法から、「子どもが考えを深めるためのもの」(交流から共有)として、活用場面を増やし、より子どもたちが主体的・対話的に学び合う場を設定することが必要だと捉えた。そのた

めには、前回の研究授業で確認したように、子どもが課題を引き受ける、子どもから課題が生み出されることや、切りかえしの問いの設定が大切である。

各教科・領域を通して「租税教育の中でつけたい力」と「教科でつけたい力」のバランスを考え、単元計画や本時を練ることを確認した。単元や本時のねらいを達成することはもちろんだが、租税教育でつけたい力として焦点化した、「集団の一員としての態度」を育む手立てを授業や単元でどのように位置付け設定していくのかは、今後も検討していく。

③ 中学年

第4学年 体育科学習指導案

4年2組 授業者：戒田 直樹
2024. 2. 7 (水) 2校時

1 単元名 ゴール型ゲーム ミニサッカー

2 租税教育の視点

【集団の一員としての態度】 互いの良さを活かし、友だちと協力して活動することができる。

3 単元目標

- ・ミニサッカーの行い方を知ることができるようにする。
- ・基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、やさしいゲームをすることができるようにする。
- ・規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友だちに伝えることができるようにする。
- ・運動遊びに進んで取り組み、規則を守り、だれとでも仲よく運動をしたり勝敗を受け入れたり、友だちの考えを認めたり、場や用具の安全に気をつけたりすることができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ミニサッカーの行い方を知っている。知① ・味方にパスを出したり、シュートをしたり、ゴールにボールを運ぶことができる。知② ・ボール保持者と自分の間に守るものがない空間に、移動することができる。知③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しめるように規則を工夫している。思① ・ボールをゴールに運ぶための簡単な作戦を選んでいる。思② ・規則や簡単な作戦について考えたことを動作や言葉、絵図で友だちに伝えている。思③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニサッカーに進んで取り組みようとしている。主① ・使用する道具などの準備や片づけを、友だちと一緒にしようとしている。主② ・場の危険物を取り除くなど、周囲を見て場や用具の安全を確かめようとしている。主③

5 指導の立場

(1) 児童について

本学級の児童は、運動に対して前向きで、休み時間には外で元気に遊んでいることが多い。特にドッジボールを好み、1.2組合同で遊んでいる。一方でサッカーをして遊ぶことは少なく、2学期にキックベースの授業を行っているが、「トウキック」が目立ち、ボールを蹴るという動作に不慣れな様子が見られる。また、全体的に運動が好きではあるが、社会体育を習っている児童とそうでない児童とで基礎技能の二極化が見られる。休み時間にトラブルになることがあり、相手の気持ちを考えずに悪口を言ってしまうたり、憶測で発言をして相手を傷つけてしまったりすることがあった。授業中は、体育では勝ちにこだわるがあまり判定に対して異議を唱えたり、運

動が苦手な友だちを急かしたりする様子が見られた。一方で運動会の表現運動など、勝ち負けに拘らず、チームで一つのものを作り上げる活動については、協力して前向きに取り組む姿が見られた。社会や算数では、ペアでシートを作り上げたり、シェアタイムを導入したりしているが、得意な子が自分のペースで進めてしまう場面がしばしば見られる。

(2) 教材について

本教材は、ゴール型のスポーツで、2つのチームが入り交じり、主に足を使ってパスやドリブルをして、相手の守りをくずしながらシュートをして得点を競い合うことが楽しい運動である。また、ゲームにおいてはチーム内で攻防の役割を分担し、作戦をたてることで、どの子も役割を担い、楽しむことができる。チームスポーツであるため、個人技だけでは成り立たず、「チームプレー」を常に意識することが必要である。その中で「励まし」「アドバイス」などの声掛けが増えてくることで、一つの目標に協力して向かう大切さを学ぶことができる集団へと変容が期待できる教材である。

(3) 指導について

指導に当たっては、「仲間と協力することで、チームとしての成功や喜びを共感し仲間意識を高める」「基礎技術を習得し、チームで考えた作戦を活用する」の2つをねらいとする。単元の最後にはゲームの時間を設定するが勝利を目的とせず、「チームとして良い攻撃をして得点を取る」ことに重点を置く。そのために攻守の入れ替えがなく、点数での勝敗が存在しないゲームも単元の中に位置づける。多くの児童がプレーに関わることができるように、人数やゲーム内容、プレー上の制限などを工夫することによって、全員の活躍の場を設定する。

全体の流れとして、第1時で通常のゲームを行う。6人または5人で4チームを編成し、2コートでゲームを行う。その後、上手いかなかったことや全員が楽しむためにはどうすれば良いかについて話し合う。その話し合いをもとに練習し、単元の始めに挙がった困りを解消していくことで、単元の最後に行うゲームでは1回目よりも上手く楽しいゲームができるようにする。第2時、第3時でボールを使った技術練習を行い、第4時、第5時、第6時で攻守に分かれた攻守固定型ゲームを行う。第2時から4人または3人の6チーム編成で授業を行い、チームのメンバー、ビブスの番号を固定して行う。第7時、第8時ではチームを再編成し、再び通常のゲームを行う。

租税教育の視点として、「互いの良さを活かし、友だちと協力して活動することができる。」ことに重点を置く。2学期の音楽の合奏では、全体で音を調和するためには1人の音が大きすぎたはいけないことを指導している。この単元でも、チームの友だちの良さを把握したうえで、そのチームにあった作戦を適切に考えられるようにしていきたい。また、試合中の励ましの言葉は積極的に褒め、試合をしていないときの児童の振る舞いや声掛けについても指導する。

6 指導と評価の計画 (全7時間)

時 (本時)	学習活動	評価規準(評価方法)
1	ゲームをし、課題について話し合うことで学習の見通しを持つ	主②
2	パス練習をする	知② 主③
3	ドリブル練習をする	知② 主①
4	攻守固定型ゲームを行いルールや趣旨の確認をする。	思・判・表①
5 (本時)	攻守固定型ゲームをし、作戦を練る。	思・判・表③
6	作戦をもとに攻守固定型ゲームを行う。	思・判・表②
7	試合を行う。	知①
8	まとめの試合を行う	主③

7 教材教具等の工夫

コートの工夫

- ・コートを9分割し、ボードで作戦を立てる際に目安とする。アタッキングゾーンでスピード感をもってプレーできるように縦の3つのゾーンを活用する。得点の可能性を高めるために、守備側ラインよりもゴール側には守備側競技者は侵入できないこととする。また、リスタートの際には、運動量確保のため、攻撃側競技者は一番手前のラインよりも内側でボールを受けることとする。

ゴールの工夫

- ・四角形にボールとコーンを使ってゴールを設定することで、正確にインサイドキックやインステップキックをすることで得点できる高さに設定している。また、コーンを使用することでサイドネットの役割をし、奥行きを出すことができるとともに、ゴール幅を調整することができる。

ルールの工夫

- ・実態に応じて「全員が楽しめる」ことに重点を置いたルール変更を行う。攻守固定型ゲームでは、攻撃側が数的有利となるように人数設定を行う。

チームの工夫

- ・単元初め、単元終盤のゲームでは、活動時間確保のため5人または6人の4チーム編成とする。攻守固定型ゲームでは、ボールに触れる回数を増やすため、話し合いを活性化し作戦を有効活用するために3人または4人の6チーム編成とする。

8 試合のルール

通常のゲーム

- ・試合時間は6分間とする。
- ・1チーム5~6人で4チーム。2つのコートで行う。
- ・ゴールキーパーを1人つける。ゴール位置に固定する必要はない。
- ・タッチラインから出た場合、出た地点からスローインする。
- ・ゴールラインから出た場合、キーパーのスローから始める。
- ・それぞれのコートでT1、T2が審判を行う。「ハンドリング」「キッキング」「ホールディング」は反則とする。反則の場合はすべて直接フリーキックとし、オフサイドは採用しない。

攻守固定型ゲーム

- ・試合時間は2分間。攻撃側がゴールにシュートを決める、ボールがコートから出る、守備側が取って2回パスをするのどれかでアウトオブプレーとし、再開は必ず攻撃側からとする。
- ・1チーム3~4人で6チーム。2つのコートで行う。それぞれのコートの中でローテーションし、各コートで総当たりが終わった後、作戦の話し合いを挟んで1チームを入れ替える。
- ・攻撃側4人+守備側3人で行う。ゲームをしていない1チームが「攻撃側への配球」「攻撃側選手の補充」「ボール拾い」を行う。守備側が4人いる場合はローテーションし、1人が外からのコーチング役とする。アウトオブプレーになるたびに、1人が交代する。
- ・配球された後、必ず攻撃側チームが2人以上ボールに触れてからシュートする。

9 本時案(5/8)

(1) 題目 ミニサッカー

(2) 主眼 話し合いで考えたチームの特徴を活かし協力して点を取るための作戦を、攻守固定型ゲームをしながら修正していくことを通して、考え伝えることができる。

(3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 補強運動を行う。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ならばせ係の指示で体操を行わせる。 ○ラダーを行わせる。 ○パスコントロールを行わせる。 ・2人組になり、コーンの間隔でインサイドパスの練習を行わせる。 	
2 めあてを確認し、チームの特徴について紹介する。	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">めあて：自分たちにあった作戦を立てて攻撃型ゲームをしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○前時に確認した自分たちのチームの良さや特徴について紹介させる。 ・掲示をもとに代表者に発表させる。 	
3 課題を確認し、チームにあった作戦を考える。	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">課題：自分たちのチームにはどんな作戦がぴったりくるだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ボードを使って作戦を考えさせる。 <予想される作戦> ・声を出して相手を惑わせる。 ・コートを広く使ってスペースを作る。 ・相手がいない所に動く。 	
4 作戦をもとに攻守固定型のゲームを行う。	23	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームを総当たりで行った後、再度話し合いの時間を設けさせる。 ・作戦が上手くいったチームには、「作戦を実行するためにどう動くか」について話し合わせる。作戦が上手くいっていないチームには、「自分のチームの特徴を活かした作戦」についてもう一度考えさせる。 ○話し合いを行った後、1チームコートを入れ替えて再度試合を行わせる。 	<p>規則や簡単な作戦について考えたことを動作や言葉、絵図で友だちに伝えている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
5 まとめを行う。	4	<ul style="list-style-type: none"> ○チームごとに最終的に一番良かった作戦について名前を付けてまとめ、紹介させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">まとめ：(例) ○○作戦が自分たちのチームにピッタリだ。</div>	
6 振り返りを行う。	3	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りシートに記入させる。 ○項目にチェックをし、チームの活動について振り返り感想を書かせる。(振り返りの視点：F) ・チームの作戦に対して「上手くいったところ」「もっとこうすれば良い」など 	

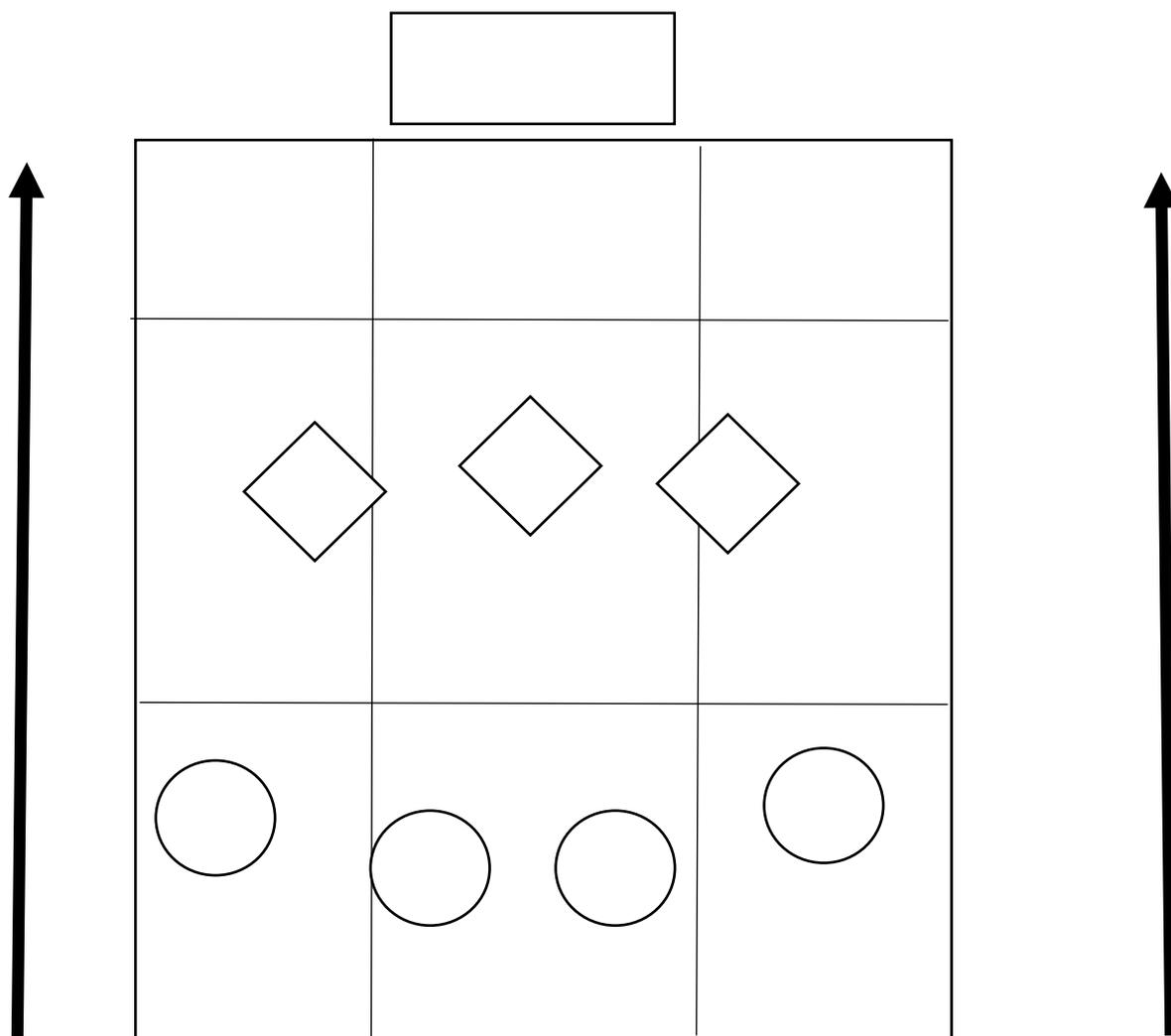
攻守固定型ゲーム試合順(欠席者によって変更)

保育園側：A(4人)、B(4人)、C(4人)

体育館側：D(4人)、E(4人)、F(3人)

保育園側	体育館側
① A 対 B	① D 対 E
② B 対 C	② E 対 F
③ C 対 A	③ F 対 D
話し合い後	
④ D 対 B	④ A 対 E
⑤ B 対 C	⑤ E 対 F
⑥ C 対 D	⑥ F 対 A

簡易型コート(○攻撃側、◇守備側、□ゴール、×配球)



研究授業のまとめ

検証されたこと

戒田教諭が T1 を務め、体育専科教員の清水教諭が T2 を務めた。T1 の戒田教諭が全体への指示を出し、子どもたちへのサポートやアドバイスを T2 の清水教諭が担う形で連携が図れていた。

本時は、ホワイトボードを活用しながらゲームを振り返り、作戦の良さや改善点を伝え合うことに重点を置いた授業であった。租税教育の視点として【集団の一員としての態度】「互いの良さを活かし、友だちと協力して活動することができる。」を設定し、パスを繋ぐために自分たちのチームの特徴を考え、協議することができていた。

事後研では、

- ① 「互いの良さを活かし、友だちと協力して活動することができる」
- ② 「教師の声掛け・出番」による子どもたちの話し合いの変化

の二つが話題に上がった。①の視点について検証が難しいのではないかと考えた。これは、事後研において行った KJ 法の検証カードの数からも明らかとなった。その原因として、①は、「めざす子ども像」であるが、職員で共通した子どもの具体的な姿を共有していなかったことであると推察される。事前に「めざす子どもの具体的な姿」を共有しておくことで授業をみる視点が明確になったであろう。次に、視点②「教師の声かけ・出番の工夫」では、一回目の阿南教諭による研究授業において取り入れた、グループ固定式を今回も採用したことで、教師の声かけや出番がどのように子どもの言葉や動きに関わっているのかが明確になった。T1、T2 の役割分担が明確であったことやグループへの声かけや働きかけが適切であったことが成果として見られた。また、②は仮説的要素であったことから、事後研では多くスポットが当てられたと考えられる。

本単元を提案する際、戒田教諭から子どもの実態として、「勝ちに拘りすぎる」「ゲームに熱中するあまり言葉が雑になってしまう」ことが挙げられていた。しかし、準備や片付けを友だちと協力しながらする姿や「ドンマイ」や「おいしい」といった声が多く聞こえた。また、話し合いの場面でも作戦を振り返りながら話し合う姿も見られた。子どもの実態をよく掴み、単元計画をしっかりと練ることで「勝ちに拘りすぎない」工夫がなされていた。

2023 年度に行った 3 つの研究授業や互見授業から視点①は、日常的な学級指導や取り組みが大きく関わるため、日々の実践での積み重ねが必要であること、単元計画を子どもの実態から考えることなどが明らかとなった。

さらに、①の視点は、「課題成立」の場面も大きな関わりがあることが見えてきた。「子どもから生まれる課題」や「子どもが引き受ける課題」が、その後のシェアタイムや練りあいの場面で重要になる。主体的・対話的に学ぶことは、子どもが課題を引き受けなければ成立しにくい。「課題成立」の場面における教師の手立てが必要である。

互見授業指導案

第1学年 算数科指導案

授業者 1年1組 勝尾 育代

- (1) 題目 ひきざん
 (2) 主眼 13-9の繰り下がりのある計算の仕方を、ブロック操作を用いることにより、見出すことができる。
 (3) 租税教育の視点 【集団の一員としての態度】 友だちの考えの良さや違いを認めることができる。
 (4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 問題場面をとらえ、学習のめあてをつかむ。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○問題を読み、大事な数字には丸、大事な言葉には波線を引かせる。 ○問題文から式を立式させる。 	
めあて		13-9のけいさんのしかたをかながえよう。	
2 本時の課題をつかみ、13-9の計算の方法を考える。	15	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の引き算を計算させ、13-9は今までの方法が使えないことを確認させる課題を提示する。 	
かだい		13-9はどうやってけいさんすればいいのかな。	
3 13-9の計算の仕方を発表する。	20	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを書かせる際①ブロック操作②図にかく③言葉で書くの順番で書かせる。 ○言葉でかく時は「どこから」(10のまとまり・ばら)、「どのように」(一つずつ・いっきに) ひいたかを書かせる。 ○シェアタイムで色々な友だちと考えを交流させる。その際「どこから」「どのように」ひいたか、が同じか違うかを比べさせながら交流させる。 ○その後全体で考えを交流させる。ブロック操作、図、言葉の順で発表させる。 ・まずは、ばらからとった子どもの考えから出させる。 (一つずつとる・3とって6いっきにとる) ○○○○●●●●●● ●●● ○○○○●●●●●●●● ●●● ・つぎに10のまとまりからとった子どもの考えを出させる。(一つずつとる・9いっきにとる) ●●●●●●●●●● ○○○ ●●●●●●●●●● ○○○ 	数量の関係に着目し、計算の仕方を考えている。 【思・判・表】
4 学習のまとめをし、振り返りをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○どの方法でも答えが4になっていることをおさえる。 ○どの方法が早くて簡単か考えさせる。 	
まとめ		10のまとまりから いっきにとればいい。	
		<ul style="list-style-type: none"> ○今日の学習で分かったことやできるようになったことをノートに書かせ、発表させる。 (振り返りの視点：A) 	

(1) 題目 3のだんの九九

(2) 主眼 3のだんの九九の作り方を、5のだんや2のだんで見つけた乗法に関する性質を用いることにより、説明することができる。

(3) 租税教育の視点

【集団の一員としての態度】友だちの考えの良さや違いを認めることができる。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 本時のめあて、学習問題を確認する。	8	<p>○めあてを提示し、学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【めあて】 3のだんの九九をつくろう。</div> <p>○プリンの写真を見て、プリンの総数の求め方を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ数ずつ入っているから、$3 \times \square$のかけ算できる。 ・3こずつだから、3×1、3×2、3×3、3×4になる。 	
2 本時の課題をつかみ、 3×5 の答えの求め方を考える。	15	<p>○3×1から3×4までのプリンの総数が写真を基にわかったら、課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【課題】 3×5から3×9までの答えはどうしたらわかるかな。</div> <p>○既習の5のだん、2のだんの考え方やまとめをヒントにして考えさせ、式や言葉で書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$3 \times 5 = 3 + 3 + 3 + 3 + 3 = 15$ ・$3 \times 6 = 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 = 18$ ・$+3$をひとつずつ増やしていく。 ・答えは3ずつ増えているから前の答えに3をたしていけばいい。 <p>○シェアタイムで友だちと考えを交流させる。</p> <p>自分の考えと違う考えも理解できたら、「わかりました」と言うようにさせる。</p> <p>○全体で考えを発表させる。</p> <p>○どの考えも1パック増えると、プリンの総数が3ずつ増えていくことから答えを求めていることをおさえて、3のだんの九九を完成させる。</p>	<p>・乗法について成り立つ性質を用いて、3のだんの九九の構成を考え、説明している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
3 考えを交流する。	12	<p>○どの考えも1パック増えると、プリンの総数が3ずつ増えていくことから答えを求めていることをおさえて、3のだんの九九を完成させる。</p>	<p>・3のだんの九九の構成のしかたを理解し、構成することができる。【知識・技能】</p>
4 本時のまとめと振り返りをする。	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【まとめ】 $3 \times \square$の答えは□の数が1ふえると、答えが3ふえることをつかうとわかる。</div> <p>○今日の学習でわかったことをノートに書かせる。 (振り返りカードA)</p>	

- (1) 主題名：力を合わせて
 (内容項目) C よりよい学校生活、集団生活の充実 (資料名) 四人五きやく
- (2) 主眼 友だちと協力するために必要なことを、ぼくやともきくんが練習でうまくいかなかった場面とうまくいった場面を比べたりぼくやともきくんの気持ちを考えることを通して、気づくようにする。
- (3) 租税教育の視点 【集団の一員としての態度】友だちの良さや違いを認めることができる。
- (4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 めあてを確認し、教材分を読む。	8	○めあてを確認し、教材文をペアで音読する。	
		めあて 友だちと協力するために必要なことを考えよう。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで交代で音読させる。 ・早く終わったペアには、座って2度目を読ませる。 	
2 場面を整理し、練習がうまくいかなかった理由とうまくいった理由を考える。	12	○練習がうまくいかなかった理由とうまくいった理由を場面ごとに整理し、板書する。	
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> うまくいっていない ・バラバラ ・何度も倒れた ・ともきくんが倒れた </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> うまくいった ・父にコツを聞いた ・調べた ・ぼくも同じことをした ・話し合った </div> </div>	
		○ぼくやともきくんがしたことが出そろったところで、問いにつなげる。	
		課題 練習がうまくいったのは、調べたり父に聞いたりしたからなのか。	
3 全体で意見を交流する。	20	○練習がうまくいった理由を考えさせる。 ・したことだけでなく、ぼくやともきくんの気持ちはどうだったのか、考えさせる。 ○全体で意見を交流させ、板書に位置付ける。 ・笑い出した ・息がそろった ・心がそろう ・力を合わせた ○気持ちが出されたところで、「ぼくの何がかわったから、気持ちがそろったのか」と問い、考えを深めさせる。 ○シェアタイムをさせ、全体発表に繋げる。 ○意見を整理しながら板書に位置付ける。	○気持ちがそろうために必要なことを考え、書くことができている。
4 学習をまとめ、振り返りをする。	5	○今日の学習を振り返り、<これからどうするのか>という視点で振り返りを書かせる。	

第4学年 道徳学習指導案

授業者 4年1組 生野 由紀

(1) 資料名 いのちのおはなし

D-2 主たる内容項目 生命の尊さ

(2) 主 眼 「いのちのおはなし」を読んで時間の使い方を考えることにより、今生きていることのありがたさがわかり、自他の生命を大切にしようとするができる。

(3) 租税教育の視点 【集団の一員としての態度】 友だちの考えのよさや違いを認めることができる。

(4) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	備考（評価規準）
1 今日のめあてを知る。	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">めあて 「時間の使い方」について考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○「いのちのおはなし」（日野原重明作）の絵本を映像とともに読ませる。 	「いのちのおはなし」絵本
2 「いのちのおはなし」の話を聞く。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本を読んだ後、今日の課題を確認させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">【課題】 「いのちの時間」をどのように使えばいいだろうか。</div>			
3 考えたことを書き、発表する。	25	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分のために」「他の人のために」の両面で、「いのちの時間」の使い方について考えさせる。 ○考えたことをワークシートに書かせる。 ○自分の考えた「いのちの時間」の使い方についてシェアタイムで交流させる。 ○「自分のために」「他の人のために」にわけて発表させる。 	いのちの時間数直線 ワークシート 時間の使い方について考えることができる。 【思・判・表】
4 先生の話聞く。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○「いのち」や「時間の使い方」について先生の話聞かせる。 	
5 学習のまとめと振り返りをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○学習して考えたことや思ったことを「これからどうする？」(振り返りC)の視点でワークシートに書き、発表させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">「時間の使い方」の発表や感想をまとめと振り返りに位置づける。</div>			

- (1) 題目 自然災害にそなえるまちづくり
- (2) 主眼 三重町で起きる災害について、ペアで共有ノートを使用し「持ち物」「安全な場所」「危険な場所」などを考える活動を通して、どんなことに気をつけて災害対策をすれば良いか説明することができるようにする。
- (3) 租税教育の視点【郷土学】【集団の一員としての態度】友だちの良さや違いに気づくことができる
- (4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 前時までの復習をし、めあての確認をする。	5	○自分たちの防災に役立てるために、防災の学習してきたことを確認させる。 めあて 災害に備えよう。	
2 災害の種類、留意点について確認する。	5	○地震、津波、土砂崩れ、洪水等が出てくることが予想されるが、三重町に住んでいる私たちが特に備えるべき災害とは何か確認させる。 ○「持ち物」「安全な場所」「危険な場所」等を把握しておく重要性を確認させる。	
課題 「三重町」では、どんなことに気をつけて災害対策を行うと良いだろう。			
3 課題を確認し、シート作成をする。	13	○ロイロノートの共有ノートを使用し、ペアで上記の留意点等についてシートを作成させる。 ○話し合ってシートを作る共有ノートの意義について指導する。	★ICT活用
4 全体に共有する	10	○提出機能で集約し、全体に向けて発信させる。	「ペアで話し合い、三重町での災害対策の留意点について考え、説明することができる。」
5 まとめをする。	6	○個人でまとめの穴埋めをさせる。 まとめ：「三重町では」 _____ に 気を付けて災害対策をすると良い。	【思考・判断・表現】
6 ふりかえりをする。	6	○本時で学んだことをノートに記述させる。 【例】どんなきけんがあるのか予測して、災害対策をすることが大切だと分かった。	

- (1) 題目 帯グラフと円グラフ(2/8)
- (2) 主眼 帯グラフや円グラフについて、既習のグラフと比較したりデータを読み取ったりすることを通して、データの特徴や傾向をとらえることができる。
- (3) 租税教育の視点
 【集団の一員としての態度】互いの良さや違いを生かし、よりよい集団をつくろうとすることができる。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 めあての確認をし、本時の問題を知る。	8	<p>めあて 割合を表すグラフについて考えよう。</p> <p>○割合を表すにはどんなグラフだといいか考えさせる。その後、帯グラフ、円グラフを提示し、よさについて考えさせる。</p> <p>【予想される考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合計が100%とわかるもの ・人数と割合が見られるもの <p>○帯グラフ、円グラフを板書、ノートに位置付け、定義を抑えさせる。</p>	・印刷して用意しておく。
2 本時の課題をとらえ、解決への見通しをもつ。	7	<p>課題 ぼうグラフに比べ、帯グラフや円グラフにはどんなよさがあるかな。</p> <p>○p.86の②を解き、よさについて考えさせる。</p>	
3 課題を解決する方法を考える。	7	<p>○1人で考えさせて、自分の考えを持たせる。その後シェアタイムをとり、班ごとに友だちの考えと比べさせたり、わからないことを友だちに質問させたりして、考えさせる。</p> <p>【予想される考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体から見たそれぞれの割合がわかりやすい。 ・ひとつひとつの割合を比べやすい。 	・帯グラフや円グラフは、全体に対する部分の割合が視覚的にとらえやすいという良さに気づき、データの特徴や傾向をとらえようとしている。【態度】
4 考えを発表する。	10	○言葉が出ない場合は、②をもう一度おさえ、よさを考えさせる。	
5 まとめと振り返りをする。	8	<p>○考えを検討させ、答えを確認させる。</p> <p>まとめ 帯グラフや円グラフは、全体をもとにしたときの割合を見たり、部分どうしの割合を比べたりしやすい。</p> <p>○振り返りカード(B、C)伝えられたこと、友だちの考えから学んだこと。</p>	

(1) 題目 並べ方と組み合わせ方

(2) 主眼 組み合わせについて、落ちや重なりがないように図や表を用いたり、記号化したりすることにより、調べることができる。

(3) 租税教育の視点

【集団の一員としての態度】互いの良さや違いを活かし、よりよい集団を作ろうとすることができる。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 学習問題を知り、めあてを確認する。	5	<p>ABCDの4つのチームでバスケットボールの試合をします。どのチームもちがったチームと1回ずつ試合をする時、どんな対戦があるか。</p> <p>○問いの場面をとらえさせる。</p> <p>めあて</p> <p>落ちや重なりのない調べ方を考えよう。</p> <p>課題</p>	<p>順列について、落ちや重なりがないように工夫して順序良く調べようとしている。【態度】</p>
2 本時の課題をとらえ、解決への見通しを持つ。	8	<p>落ちや重なりがないように組み合わせを調べるためには、どうしたらよいだろう。</p> <p>○前時までの学習との共通点や相違点を見つけさせる。</p> <p>○一人で考えて、自分の考えを持たせる。その後シェアタイムをとり、友だちの考えと比べさせたり、わからないことを友だちに質問させたりして、自分なりに課題を解決させる。</p> <p>○それぞれの考えを発表し、全体で共有させる。</p>	
3 課題を解決する方法を考える。	10	<p>○考え方を検討させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記号を使うと早く簡単にできる。 ・1番目や2番目を決めると順序良く並べられる。 ・1番目や2番目を決めると、落ちや重なりがなくなる。 ・表や図は見やすくわかりやすい。 	
4 考えを発表する。	10	<p>まとめ</p> <p>落ちや重なりがないように並べ方を調べるためには、図や表を使って順序良く調べるとよい。</p> <p>○今日の学習で伝えられたこと、友だちの考えから学んだことをノートに書かせ、発表させる。</p> <p>(振り返りカードB、C)</p>	
5 まとめと振り返りをする。	10		

- (1) 題目 明治の新しい国づくり
- (2) 主眼 日本が開国するかどうかについて当時の時代背景や国際情勢から考えることにより、自分の考えを表現することができる。
- (4) 租税教育の視点
【集団の一員としての態度】友だちの考えの良さや違いを認め、それを聞いて自分の意見を深めることができる。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 資料を見て、当時の人々の様子をつかみ、本時のめあてを提示する。	5	<p>○黒船が来港した当時の資料を見て、当時の人々の様子を読み取り、めあてにつなげる。</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あわただしい様子 ・逃げている。 ・びっくりしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて 黒船が来港した当時の人々の思いを考えよう。</div>	
2 資料から、ペリーが日本に来た理由を読み取る。	8	<p>○ペリーたちは何が目的で日本にやってきたのか、2つの資料から読み取る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 資料① フィルモア大統領からの手紙 資料② 黒船の大きさ・乗船人数・設備 </div> <p>【予想される児童の考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大統領からの手紙をもってくるため。 ・大砲があるから日本と戦いに来た。 ・日本と貿易をするため。 ・何かあった時に日本に立ち寄らせてほしいと頼みにきた。 ・黒船の大きさや黒船に大砲をつんでいることから、ペリーらは友好的な雰囲気ではなかったことに気づかせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">課題 当時の大名たちは、外国に対してどのような思いを持っていたのだろうか。</div>	
3 本時の課題を提示する。	25	<p>○幕府はなぜすぐに開国しなかったのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に開国する・鎖国する・戦うという3つの視点から予想させる。 ・個人で考えた後にグループで話し合う。 <p>【予想される児童の考え】</p> <p>『開国する』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカと戦っても勝てるはずがないから開国する。 ・貿易をして利益を得ることができるから。 ・外国の技術を知って新しいものを取り入れたいから。 <p>『鎖国を続ける』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教が広まり、みんなが言うことを聞かなくなるかもしれない。 ・ほかの国に支配されてしまうかもしれない。 <p>『戦う』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカも大砲を持ってきていて戦いに来ている雰囲気だから。 <p>・当時の大名たちの間でも、意見が割れていたこと、1853年の時点では、鎖国を続けるべきや戦うべきと考えていた大名も多かったことを伝える。</p>	※黒船の来港により日本が開国するかどうかについて当時の時代背景や国際関係から考え、表現している。(思考・判断・表現)
4 本時のまとめと振り返りをする。	7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">日本が開国すべきかどうか、当時の大名たちの中でも様々な意見があり、悩んでいた。</div> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業で学んだこと、友だちの考えを聞いて思ったことを書かせる。 	

(1) 題目 こんなときどうする

(2) 主眼

絵カードに表わされた場面について、自分だったらどうするかを友だちと話し合うことを通して、ルールを守ることや他者の感情を推測することができる。

(3) 租税教育の視点

互いの良さや違いを活かし、友だちと協力して活動することができる。【集団の一員としての態度】

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 本時の学習活動とめあてをつかむ。	2	○本時の学習活動とめあてを知らせる。 【めあて】みんなで「こんなときどうする」をかんがえよう。	
2 絵カードの場面を見て、自分だったらどう行動するかを簡単な文章で書く。(1枚目)	15	○絵カードの場面の解説をしたり、絵の説明をしたりして、場面の理解を促す。 ○書いた内容を発表させ、よりよい行動は何かを考えさせる。 ・考えがもてない児童には選択肢(ヒント)を提示する。 ・どの考えも肯定的に評価することで、安心感を与え、考えたり発表したりする意欲をもたせる。 ・友だちの考えていいと思ったものは、赤字で書き加えることを伝える。	○ルールを守ることや他者の感情を推測することができる。【環境の把握・心理的な安定】 【場面1】学校から帰ってきて家に入ろうと思ったらカギがありません。家の中には誰もいません。こんな時、どうする?
3 絵カードの場面を見て、自分だったらどう行動するかを簡単な文章で書く。(2枚目)	25	○絵カードの場面の解説をしたり、絵の説明をしたりして、場面の理解を促す。 ○書いた内容をシェアタイムで交流させる。 ○全体の場で発表させ、似た考えどうしを板書に位置付ける。	【場面2】電車の中で、隣の人から何か変なおいがします。こんなときどうする? ○友だちと一緒に活動に取り組んでいる。【人間関係の形成・コミュニケーション】
4 本時の振り返りをする。	3	○今日がんばったことは何かを発表させる。 (例)他の人の意見をよく聞きました。「大人に相談する」が、いい考えだと思いました。 (例)よく考えました。○○の場面で、～すればいいとわかりました。	

(1) 題目 話し合おう！クリスマスケーキデコレーション

(2) 主眼 話し合うことの良さを、友だちの考えを取り入れながらケーキの材料や飾りつけを考えることを通して、味わうことができる。

(3) 租税教育の視点

【集団の一員としての態度】友だちの良さや違いに気づくことができる。

友だちと力を合わせて活動することができる。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考（評価規準）
1 アイスブレイクに取り組む。	10	<p>○話し手と聞き手に分かれ、『会話を続けよう』ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昨日の出来事」や「好きな〇〇」などテーマを設定する。 ・会話が続いた回数をカウントしてゲーム感覚で取り組ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 相談してクリスマスケーキを完成させよう。</p> </div>	
2 活動内容と本時の学習のめあてを知る。	5	<p>○デコレーションケーキを考えるにあたって条件があることを知らせる。</p> <p>【条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のせることができる飾り、材料はあわせて10個まで ・あおぞら学級のクリスマス会で出てきたらみんなが喜ぶケーキ 	
3 ケーキにのせる材料や飾りを、一人で考える。	5	<p>○各自にケーキ型のイラストが入ったシートを渡し、まずは一人で考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々で操作できるように、デコレーションの飾りやカットフルーツのイラストを用意しておく。 ・最終的には相談して完成させるため、個々の作業は途中でよいことを伝える。 	
4 相談しながらケーキを仕上げる。	15	<p>○協力して一つのケーキを完成させるために、三人で一枚のケーキ型のシートを使うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いに入る前に、既習の話し合い言葉を想起させ、板書する。 	<p>友だちと話し合ってケーキを完成させようとしている。</p> <p>自分と違う考えに気付くことができる。【コミュニケーション】</p>
5 完成したケーキについて話を	5	<p>○完成したケーキに名前をつけたり、みんなで考えたケーキの良さについてお互いに話をさせたりする。</p>	
6 振り返りを行う。	5	<p>○できたこと、わかったこと、思ったことなどを一人ずつ発表させる。(振り返りカードF)</p>	

Ⅰ 年次の成果と課題

2023年度は、2022年度の研究テーマである「なかまづくり」の視点を引き継ぎながらも、さらに焦点化しながら研究を進めてきた。授業・行事を租税教育の視点を取り入れて行う中で、授業づくり・学級づくり・授業や行事での教師の役割における成果と課題が見えてきた。教師の困りや悩みを共有し、少しずつ前進できるように取り組みを進めてきた。

① 互見授業

互いの日常実践を見合うことで、教師の言葉かけや子どもの動きから学級経営の視点で授業観察をすることができた。困っていることや取り組めたこと、取り組んでいることを見合うことで、授業者だけでなく参観者も学ぶことができた。また、研修内で話題になるシェアタイムを見合うことで、設定場面や活用の仕方などの交流ができた。

② 研究授業

2023年度は3本（低1本 中1本 高1本）の研究授業を実施した。3本の研究授業から見えてきた成果として、

- ① まずやってみる。全職員で授業を見合い、授業づくりに悩んだこと。
- ② 対立意見が出る課題の設定における子どもの主体的・対話的な話し合い
- ③ 広げるシェアタイムの活用から深めるシェアタイムの活用
- ④ 子どもの実態に合わせた教材研究 の4点が挙げられる。

課題として、

- ① めざす子どもの具体的な姿として声かけや行動、態度の共有をするために研究仮説を設定すること
- ② 子どもが主体的・対話的に話し合える課題を設定するために子どもの困りや疑問の中から課題を設定すること
- ③ ①②を支える子どもを主人公にした学級づくり
- ④ 子どもが主体的に課題解決する場面では、子どもたちの思考や活動が行き詰まった時の指導内容（教師の出方や出番の工夫） の4点が挙げられる。

これらのことから、租税教育の視点をより深掘りし、組織的に研究を進めていくために、2年次では以下のように研究仮説を設定する。

「解決すべき明確な課題を設定し、話し合い活動におけるシェアタイムや全体交流のあり方や教師の出方を工夫すれば、子どもたちは友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられるであろう」

③ 租税教育の視点

2023年度、租税教育の視点として「集団の一員としての態度」に焦点化して授業づくりを行ってきた。その中で、授業づくりと学級づくりには、密接な関係があることが明確になった。学習において共に学び合い、助け合う関係を築いていくためには、それを支える学級づくりが大切である。租税教育の視点としての「集団の一員としての態度」を育むことが、本校の子どもたちの課題を克服し、どの子ども学級に安心感と所属感を持てると考える。

③ 来年度に向けて

2023年度は、「①本時の評価規準②集団の一員としての態度③教師の声かけ・出番による子どもたちの話し合いの変化」を協議の柱として位置付け、授業観察を行ってきた。そのため、授業者もこの3つを意識して授業づくりを行ってきた。前述したように、②では、子どもの具体的な姿（言葉や行動）を共有できていなかったために、事後研において深まりの見られにくいものとなった。また、子どもが主体的・対話的に学ぶためには「質の高い課題」が必要であることが明確になった。

このことから2024年度は、研究仮説を設定し、授業観察の視点をより明らかにして研究を進めていくこと、協議・授業づくりの柱として「①課題の質②集団の一員としての態度（めざす子どもの姿を具体的に設定する）③教師の出方の工夫」とすることとする。

(2) 2年次

指定研究の2年次は、1年次の取組みの共通理解をすることから始めた。租税教育の捉え、シェアタイム、学習規律などの学習環境整備などについて、理解を深め、教職員の足並みをそろえようと努めた。2学期に公開研究会を開催することから、研究の方向性を理解し、全教職員で日常実践を進められるように1学期に提案授業、互見授業を実施した。

提案授業

第4学年 国語科学習指導案

授業者 阿南 吉浩
2024.5.29(水) 2校時

1 単元名 走れ

2 租税教育の視点

- ・友だちの良さや違いを認めることができる。
- ・互いの良さを活かし、友だちと協力して活動することができる。

3 単元目標

- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができるようにする。

[知識・技能] ((1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ア)

- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるようにする。

[思考力・判断力・表現力等] (C読むこと(1)イ)

- ・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができるようにする。

[思考力・判断力・表現力等] (C読むこと(1)カ)

- ・進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとする。

[学びに向かう力。人間性等]

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。① ((1)ア) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には性格や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。② ((1)オ)	・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。① (C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。② (C(1)カ)	・進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。①

5 指導の立場について

(1) 教材について

四年生で学習する二つ目の物語文教材「走れ」は、中心人物の「のぶよ」の変容を対人物の「けんじ」と「お母ちゃん」との関わりの移り変わりを通して描いた心温まる物語である。

のぶよは、お父ちゃんが亡くなったあと一人で弁当の仕出し屋を切り盛りしているお母ちゃんを助けて、二年生の弟けんじの世話や家事をこなす四年生。健気に振る舞っているが、さみしさを抱えている。運動会の日。大の苦手になっている短距離走をひかえ、憂鬱な日が始まる。

更に、のぶよは、けんじが一年生の時と引き続き、とびっきりの一等になった瞬間を仕事の都合で見ることができなかつたお母ちゃんとの確執を目の当たりにする。けんじとお母ちゃんのどちらの思いも理解できるからこそ、のぶよの憂鬱な気持ちは深まっていく。

昼食ぬきで始まった午後の競技。徐々に近づく短距離走。どんどん重くなる体。「もう走れない。」と思った瞬間、不意にかぶさった「姉ちゃん行けっ!」「のぶよ、行け!」の二つの声。「二つの声がかぶさった」からこそ、のぶよは、けんじとお母ちゃんの確執が氷塊したことに気づく。これを契機にして、のぶよの思いは、「体にからみついていたいろいろな思いがするするとほどけていき」、「暗」から「明」へと反転し、最後は、親子三人笑顔で終わる。

「走れ」は、子どもたちに中心人物「のぶよ」の「何が・どう・なぜ・どこで決定的に」変容したことが明確に分かり書かれていて、読み手が作者の伝えたいことを読み取ることに適した教材だと考えている。

(2) 児童について

この学年の国語を担当して二年目になる。物語文の授業は、昨年から一貫して教材を「～(中心人物)が、～(最も大きな出来事)によって、～になった(変容)話」という一文で表すことで読み取る単元構成を行ってきた。物語文を読むとは、中心人物の変容を読むことであり、その読み取り方を教えてきた。

また、課題を全員が同じ土俵で話し合えるようにするため、「中心人物」「対人物」「場面の変わり目は、時・場所・人が変わったところ」など基本的な用語の意味や考え方を繰り返し確認してきた。

さらに、一文で表す活動では、学年後半から、教材ごとに3人から5人程度のランダムなグループをもとにして考えさせてきた。このグループでの活動は、2学期・3学期に実施した「ビブリオバトル」でも用いた。この活動の機会が増えるにつれて、グループで司会役やアドバイス役などの自分の役割を意識した行動をとれる子どもが増えてきた印象がある。

4年生には、学年最初の授業時に年間通したためあてを、「自分の力で作者や筆者の伝えたいことを読み取れるようになるう。」と提示し、教室に常掲している。

4年生最初の物語文教材「こわれた千の楽器」では、一文で表すことに加えて、作者が伝えたいこと(主題)についても考えさせた。

自分の力で、中心人物の「こわれた千の楽器」と対人物の「月」の関係をしっかり読み取れ一文を書けた A 評価の児童は2割で、中心人物の変容は読み取れていた B 評価の児童が6割であった。一人ひとりの物語を一文で表しまとめる力は、付きつつあると考えている。

次に、一人ひとりの一文をもとにして、グループの一文を考えさせた(シェアタイム)。この活動でも決められた時間で話し合いをまとめる力は伸びてきていた。そして、グループでまとめた一文を対比しながら、一文をまとめた。まとまった一文は、

A～こわれて使えなくなった千の楽器たちが、月に「こわれた楽器倉庫」といわれて、かなしくてくやしくなり、ピオラの名案でやる気が出たことによって、練習をして、一つ一つみんなりっぱな楽器になって、素敵な演奏ができた話

B～くもの巣をかぶって寝ていたこわれた千の楽器たちが、月に「こわれた楽器倉庫」といわれてくやしくて、みんなでおぎない合うことによって、月が夢中になるぐらいキレイな演奏がまたできるようになった話

になった。

さらに、子どもたちに作者の伝えたいこと(主題)を考えさせた。子どもたちに主題の意味を十分に理解させきれていない中であつたが、子どもたちが考えた主題は「あきらめないことが大切」「一人ひとりちがっていい」「立ち直り」「協力

する力」「努力」「助け合い」「いろんなことにちょうせんしてほしい」などであった。物語の内容を的確にまとめて、主題を選んだ理由を文章事実から書けていた子どもたちもいた。

(3) 指導について

物語文を読む目的は、「人の生き方を学ぶ」ことであり、そのためには、中心人物の変容を読み取ることを通して主題に迫ることが不可欠だと考えている。そして、これを自分の力で、できるようになるには、繰り返した単元展開が必要である。そこで、今回も「物語を一文で表す」→「主題を考える」の従来の展開を踏襲する。

そして、租税教育における指導の重点目標である「集団の中で自他の役割を認識して行動することができる」の達成をめざして、「一人ひとりの役割分担の明確化」と「一人ひとりが納得するまで考えられる自由度を保証」するために二次から交流を中心とした学習を取り入れる。具体的には、同じ課題を考える活動を「一人で考える」→「考えを共有する」→「学級全体で共有する」という流れで行う。

子どもたちには、事前に教師が六場面に分けた教材文を渡す。

一次では、まず、物語文の年間通したためあて「自分の力で作者の伝えたいことを読み取れるようになろう。」を確認し、単元の最後に振り返りをすることを確認する。また、単元を通して考え続ける課題「作者の村中季衣さんが読み手（三重東小4年生）に伝えたいことは何だろう。」であること。そのためには、「走れ」を中心人物の変容をもとに「一文」で表すこと。及び単元の進め方を子どもたちに提示する。次に、音読や意味調べを行うことによって、読めない・意味が分からない難語句をなくしていく。

二次では、まず、中心人物「のぶよ」と対人物「けんじ」「お母ちゃん」の人物像を読み取り、人物関係図に表す。次に、六場面を前話（一場面）、展開（二～四場面）、山場（五場面）、後話（六場面）に再編成する。更に、山場である五場面から、のぶよが決定的に変わったクライマックスの一文を読み取る。

その後、「走れ」を一文に表す活動を行う。

①「変容前の中心人物」（～が） ②「変容後の中心人物」（～になった話） ③「変容のわけ」（～によって）を1時間ずつ、一人で。次に、グループで。最後は、全体で、共有して一文にまとめて表していく。

また、子どもたちには、グループで「(1)一人ひとりの考えを受け入れる。(2)同じ言葉や似た言葉を書き出す。(3)違う言葉を書き出し、①どれか一つを選ぶ②つなぐ③まとめる新しい言葉を考える。」過程を経て、考えを共有し、まとめるを見つけること」が大切だということと得意な子どもの考えだけに頼ることがないようにすることも確認する。この間の一人ひとりの考えの変化が分かるようにワークプリントに記入させる。

三次では、まとめた一文から一人ひとりで「作者が伝えたいこと」を考えさせる。最後は、考えた「作者が伝えたいこと」を全員で共有する。最後に、「自分の力で作者の伝えたいことを読み取れたか。」を振り返る時間を取る。主題が主観的なものであることから、「走れ」の単元を通して考え続ける課題（「作者の伝えたいことは何だろう」）に対する答えは、「オープンエンド」だと考えているが、「こわれた千の楽器」で考えた主題よりも深まったものが増えることを期待している。

6 指導の評価と計画(9時間扱い)

時	学習活動	評価規準 (評価方法)
一次	①単元を通したねらいと考え続ける課題を共有する。 ・物語の読み方を再確認する。 ・単元の進め方が分かる。 ・範読とグループ音読で読めない語句をなくす。 ②意味調べて難語句をなくす。	知① 知②
二次	③のぶよ・けんじ・お母ちゃんの人物像を図に表す。 ④五場面から「クライマックスの一文」を読み取る。 ⑤一文の変容前の中心人物を考える。 ⑥一文の変容後の中心人物を考える。	思①② 思①② 思①②注① 思①②注①

	⑦一文の変容の原因を考える。(本時)	思①②注①
三次	⑧一人で「作者が伝えたいこと」を考える。 ⑨全員の「作者が伝えたいこと」を共有する。ねらいの振り返りをする。	主① 思②注①

7 本時案(7/9)

(1) 題目 のぶよが変わったわけ

(2) 主眼 「のぶよが変わったわけ」を一人→グループ→全体と段階を重ねる中で考えた文を比べて同じ言葉と違う言葉を明かし、文章事実に照らして違いを埋めたり、「二つの声がかぶさったことでのぶよが分かったことは何か」を考えたりすることを通して、読み取ることができる。

(3) 租税教育の視点

【集団の一員としての態度】友だちのよさやちがいを認めることができる。

〈本時で期待する姿〉

- ・一人ひとりで考えた「のぶよが変わったわけ」を受け入れることができている。(3活)
- ・考えの違いを埋める過程で、一人の考えだけに固執せずに、まとめようとしている。(3活)

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考 (評価規準)
1 考え続ける課題・本時の課題及び本時の位置づけ・授業の進め方を確認する。	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">めあて 自分の力で作者の伝えたいことを読み取れるようになろう。</div> ○掲示物をもとに、まず、「考え続ける課題」「本時の課題」(「のぶよが変わったわけ」と本時のゴール(「一文」の完成)を確認する。次に、単元全体の中で本時の位置づけと授業の流れを確認する。	思②注①
2 一人で「のぶよが変わった原因」を考える。	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">課題 のぶよが変わったのはなぜか。</div> ○前時までにグループ全体で読み取った「変わる前ののぶよ」「変わった後ののぶよ」の記述と「クライマックスの一文」を確認する。 ○五場面のクライマックスの一文までを全員で音読する。その後、一人で「のぶよが変わったわけ」を考え、ワークプリントに書かせる。早く書けた子どもは、違うグループの子どもとお互いの考えを共有させる。	
3 グループで「のぶよが変わったわけ」を考え、まとめる。	15	○一人で考えた「のぶよが変わったわけ」をグループで伝え合い共有する。 まとめる手順は、 (1) 同じ言葉や似ている言葉を書き出す。 (2) 違う言葉を書き出す。 (3) 違う言葉から ①どれか一つを選ぶ②つないでまとめる③新しい言葉を考える。 (4) (1)と(3)の言葉をつなぐ。 であることを確認する。 ○まとまった考えは、ワークプリントに記入するとともに、短冊にも書き黒板に貼らせていく。	

4 全体で共有する。	15	<p>○グループごとに短冊に書いた言葉を見て、共通する言葉とずれている言葉を黒板に書き出す。</p> <p>○多くのグループからわけとして「二つの声がかぶさった」という記述が出されることが予想される。そこで、「二つの声がかぶさったことで、のぶよに分かったことは何か。」と問い、グループごとに考えさせる。</p> <p>(予想される答え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母ちゃんとけんじが仲直りした ・お互いにあやまった ・お互いに許した 	
5 学習をまとめる。	2	<p>○のぶよにその瞬間、二人が分かり合えたことを理解できたからこそ元気が出た」こと。そして、「ラストという言葉が、こんなにほこらしく聞こえたことは、初めてだった。」の文章事実にかえし、のぶよにとっては、順位よりも家族のつながりの方が格段に大切なことを読み取らせる。</p> <p>【まとめ】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「のぶよが変わったわけは、「ねえちゃん行け」「のぶよ行け」と二つの声かせなかにかぶさり、お母ちゃんとけんじが分かり合えたことを理解したからです。</p> </div> <p>○グループで考えた「走れ」をまとめた一文を黒板に掲示する。また、次時は、「一人で作者が伝えたいことを考える」ことを伝える。</p>	

【クライマックスの一文】(のぶよが決定的に暗から明に変わった瞬間)

五場面「思わず、ぎゅんと足が出た。」

【「走れ」をまとめた一文】

苦手な短距離に加えて、お母ちゃんとけんじの仲違いに心を痛めて自分のさみしさも伝えられずにもう走れないと思ったのぶよが、「ねえちゃん行け」「のぶよ行け」と二つの声かせなかにかぶさり、お母ちゃんとけんじが分かり合えたことを悟ったことによって、体にかみついていろいろな思いがするするとほどけ、ラストさえもほこらしく思え家族のきずながより強くなった話

【主題】「家族は、すばらしい」「思いは伝わる」

研究授業の成果と課題

○子どもが主体的に取り組みたくなる課題の設定

【成果】

〈教師〉

「課題」の提示が早かった。また、子どもたちの考えることが絞られていた。

(第二課題のとき) 子どもたちの言葉を使って「課題」が設定されていた。

〈子ども〉

日頃から文章をよく読み、書いている。また、授業の流れがいつも決まっている(パターン化されている)ので子どもたちは主体的に取り組んでいた。

【課題】

〈子ども〉

「(〇〇さんと考えが) “いっしょ” という発言から、内容が “いっしょ” でも言葉(表現のしかた)が “ちがう” とき、“いっしょ” をどういう意味でとらえていたのか。内面的なこともとらえていて、同意見なのか、違うのかをはっきりできていなかった。ここを深めても良かったのでは。

○集団の一員としての態度。本時で期待する姿は？

【成果】

〈子ども〉

グループ内で真剣に「伝えよう」「聞こう」としていた。
考えが書けていない友だちに丁寧に教えていた
グループ全員の意見を聞こうとしていた。
友だちの考えを認めていた。話し合いの中で考えが深まっていた。

○教師の出方の工夫。シェアタイム・全体交流の場面における工夫

【成果】

〈教師〉

考えをもてない子どもへの配慮ができていた。(声かけ等)
ワークシートが視覚的にとらえやすいものだったので、子どもたちも書きやすかった。

〈子ども〉

自分の考えをシェアタイムで交流させたことで自信をもたせることができた。
シェアタイムで一人の子どもに周りの子どもが声をかけ合っていた。

【課題】

〈教師〉

シェアタイムのさせ方に工夫が必要。教師側もシェアタイムの中身を把握する必要がある。そのため、シェアさせる場所や時間を考える必要があった。

〈子ども〉

シェアタイムでの内容の深まりがあったか。「同じ」の質。何が同じなのか。
言葉の共通点と違うところを見つけることができなかった。

子どもたちは、集団の一員としての態度を養うことをねらった活動を意欲的に取り組んでいた。グループでの話し合いやシェアタイムを有効に使い、考えをもてない子どもへのサポートや互いの考えを確認することができた。これは、教師側の課題の設定や声かけ、ワークシートの工夫が有効であったと考える。

一方、シェアタイムをどのように位置づけるか、子どもたちが目的意識をもってシェアタイムに取り組んでいたかが課題となった。「いっしょ」・「同じ」だったのは「言葉」なのか、主人公の「気持ち」だったのか。そこまで深められるシェアタイムに教師側の指導と配慮が必要だった。

互見授業

6月初旬から下旬にかけて、学年部ごとに互見授業を実施し、事後研を行った。以下は、6月に実施した互見授業の指導案である。

第1学年 道徳 学習指導案

授業者 1年1組 飯干 志織

(1) 題目 わがままをしない「A節度、節制」

(2) 主眼 周りのことを考えて自分のしたいことを抑えることの大切さを、つるをぐんぐん伸ばす「かぼちゃ」、周りの仲間たちに注意された時の「かぼちゃ」、つるを切られた時の「かぼちゃ」の気持ちの変容をもとに話し合い交流することによって、理解することができる。【道徳的心情】

(3) 租税教育の視点 【集団の一員としての態度】友だちの良さや違いに気づくことができる。

<本時で期待する姿>

課題についてペアで交流する場面で、友だちの考えを終わりまで聞くことができる。(4活)

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 どうしてわがままをしてしまうのか意見を交わす。	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【めあて】わがままについて かんがえよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験を思い出させ、どうしてわがままをしてしまうのかを出させる。 	
2 「かぼちゃのつる」を読む。	6	<ul style="list-style-type: none"> ○「かぼちゃのつる」を読み、あらすじを確かめさせる。かぼちゃの心情の変化に目を向けさせる。 	
3 「かぼちゃ」の行動から、課題を知る。	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【かだい】とらづくにつるを きられた かぼちゃさんは、なきながらどんな ことを おもったのかな。</div>	
4 課題について考え、ペアで交流する。	11	<ul style="list-style-type: none"> ○個人で考えた後、ペアで考えを伝え合う。 ★「お・ち・か・く」を意識させる。(シェアタイム) <予想される考え> <ul style="list-style-type: none"> ・わがままなんか、しなければよかったな。 ・みんなに迷惑をかけて悪かったな。ごめんね。 ・我慢すれば、自分もみんなも気持ちよく過ごせそう。 ○わがままをすることで周囲へ影響すること、また「かぼちゃ」の反省の気持ちを取り上げ、5活につなげる。 	周りのことを考えて、自分のしたいことを抑えることのよさに気付いている。(発言)
5 「かぼちゃ」に教えてあげたいことを手紙に書く。	16	<ul style="list-style-type: none"> ○「かぼちゃ」へ教えてあげたいことを手紙に書かせる。 <予想される考え> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが困るから、わがままをしてはいけないよ。 ・わがままをせずに、みんなのことを考えて過ごすことが大切。 	周りのことを考えて、自分のしたいことを抑えることのよさに気付いている。(ワークシート)
6 学習の振り返りをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返って、感じたことを発表させる。 ○わがままをせずに、自分のしたいことを我慢することが、みんなが気持ちよく過ごせることにつながることをおさえる。 	

(1) 主題名 やさしい人

資料名 とくべつなたからもの B 親切、思いやり

(2) 主眼 「くまくん」が宝物をあきらめてねずみ君を助けたことについて、くまくんの心の中の葛藤を考えることにより、周りの人にやさしい気持ちを持つことの良さに気付くことができる。

(3) 租税教育の視点 【集団の一員としての態度】友だちの考えのよさや違いを認めることができる。

<本時で期待する姿>

○友だちの意見を聞いたときに、反応「そ・う・だ・よ・い・わ」をしている。

「そうだね」、「いいね」、「わかる」、「大丈夫」、「うんうん」

○友だちの考えを聞いて質問し、自分の意見と比べて似ているところや違うところを見つけている。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 本時のめあてを知る。	3	めあて やさしい気持ちについて考えよう。	
2 教師の範読を聞く。	5	○資料の範読を行う。くまくんの気持ちを考えながら聞かせる。	
3 課題をつかみ、自分の意見を持ち、全体で共有する。	15	<p>中心発問 くまくんはどうしてねずみの子をたすけたのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くまくんのほうが力がつよいので、助け出せると思ったから。 ・たからものはもう一回拾えばいいから。 ・ねずみくんの命よりも大切なことはないから。 <p>○ねずみくんを助けるためには、大切な宝物を捨てなければならなかったことを抑えて、くまくんの困っている人を放っておけなかった心に気付かせる。</p> <p>○シェアタイムで意見交流をさせる。(そ・う・だ・よ・い・わ)</p> <p>○交流をもとに、自分の考えをもたせ、発表させる。</p>	<p>●主人公の葛藤に気づき、相手のことを考えて親切に行動することのすばらしさに気付けたか。</p> <p>・相手の意見に反応しながら考えを伝え合っている。</p>
4 「とくべつなたからもの」とはどういうものか考える。	10	<p>なぜ「とくべつな」たからものになったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねずみくんがありがとうの気持ちをこめてくれたどんぐりだから。 ・くまくんのやさしいきもちがねずみくんにつたわっていたことがわかったから。 ・ねずみくんをたすけた時のとくべつな思い出のあるどんぐりだから。 	
5 本時の振り返りをする。	7	<p>○くまくんとねずみくんのやさしさをどう思うか問い、ふりかえりに書かせる。</p> <p>(視点B:わかったこと、なっとくできたこと)</p>	

- (1) 題目 180度より大きい角度のはかり方を考えよう
 (2) 主眼 180度より大きい角度のはかり方を、既習事項をもとにしたり、補助線を引いたりして考え、説明することができる。(思考・判断・表現)

(3) 租税教育の視点

【集団の一員としての態度】

- ・自分の良さを活かし、さまざまな活動に意欲的に取り組む。
- ・友だちの良さや違いを認めることができる。

<本時で期待する姿>

- ・2活で、既習事項をもとに、意欲的に取り組んでいる。
- ・3活、4活で、お互いの考えを伝え合うシェアタイムで、お互いの考えのよさに気づき、収束させる発言をしている。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 ①本時の流れ ②問題③めあて④ 課題⑤本時の振り 返りの視点を確認 する。	5	○本時の流れ、問題、めあて、課題、振り返りの視点(B)を確認させる。 問題 「あ」の角度は何度ですか。 めあて：180度より大きい角度のはかり方を考えよう 課題：180度より大きい角度の時は、どんな工夫をすれば、はかれるか。	
2 自分で考える。	7	○既習事項をもとに、ノートに自分の考えを書く。 (自己存在) (予想される考え) ① 360度から180度より小さい角度をひく ② 補助線を引いて、のこりの角度をたす ③ 分度器を合体させてはかる	・意欲的に取り組んでいる。
3 グループでシェア タイムをする。 (出し合い、拡散)	8	○グループでシェアタイムをさせる。 (意見の出し合いをさせる) (共感的理解) 《 シェアタイムのポイント(レベル) 》 ① お互いの意見を聞いて、うなづく ② なるほどね、それいいね ③ 質問をする 発展	・お互いの考えのよさに気づき、収束させる発言をしている。
4 全体でシェアタイム をする。 (収束)	10	○グループで出た意見を交流させる。 ○わかりにくい文章があれば、わかりやすい表現になるように意見を交わさせる。	
5 まとめをし、練習 問題に取り組む。	10	まとめ：180度より大きい角度の時は、①180度より小さい角度をひく ②補助線を引いて、残りの角度をたす はかれる。 ○練習問題を解かせる。(P.63 え)	
6 振り返りをする。	5	○Bの視点(自分で考えられたこと、伝えられたこと)で振り返りをさせる。	

- (1) 主題名 きまりは何のため
資料名 セルフジャッジ C規則の尊重
- (2) ねらい きまりが何のために存在するのかを考える活動を通して、その意義を理解し、進んでそれを守り、自分の義務と責任を果てしていこうとする心情を育てる。
- (3) 租税教育の視点 【集団の一員としての態度】
互いの良さを活かし、よりよい集団を作ろうとすることができる。

<本時で期待する姿>

- ・シェアタイムで友だちと考えを交流する活動を通して、考えを伝えたり、聞き比べたりして自分の考えを練り直すことができる。
- ・考えのまとまらない友だちに声をかけたり、一緒に考えたりすることができる。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 めあてを知り、資料の範読を聞く。	10	<p>めあて きまりは何のためにあるのか考えよう。</p> <p>○きまりについての考えを出させる。 ○「きまりは必要なのか?」と問う。 ○範読をする。</p>	
2 本時の課題について考え、交流する。	20	<p>○ゲームがおもしろくなくなった場面を取り上げる。</p> <p>課題 ゲームがおもしろくなくなったのはなぜだろう。</p> <p>○自分の考えを書かせる。 ○シェアタイムを持ち、自分とは違う考えを知る。 ○友だちの考えと自分の考えを比べたり、合わせたりして、自分の考えを練り直す。 ○困ったり悩んだりしている友だちと、一緒に考えてもよいことを伝える。 ○意見を整理したりまとめたりしながら板書する。 ○本当のセルフジャッジとはどんなジャッジなのかと投げかけ考えを深めさせる</p>	<p>・ゲームがおもしろくなくなった理由を考えている。</p> <p>【思・判・表】 ・友だちの考えと比べたり、自分の考えを練り直したりすることができる。</p> <p>【態度】</p>
3 まとめをする。	5	<p>まとめ ゲームを楽しくするためには()</p> <p><予想される子どもの考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直に判定をすること。 ・みんながルールを守ること。 ・勝手な事をしないように気を付けること。 	
4 本時の振り返りをする。	10	<p><視点C>これから自分がセルフジャッジをするときに気をつけたいこと・心がけたいことを考えさせる。</p>	

- (1) 主題名 公正な態度で 資料名「森川君のうわさ」
 (2) ねらい 一面的な見方やうわさ話を鵜呑みにすることが相手を傷つけることがあるということを考えることを通して、差別や偏見のない公正・公平な態度で誰にでも接しようとする心情を育てる。
 (3) 租税教育の視点【集団の一員としての態度】
 集団の中で自他の役割を認識して行動することができる。

<本時で期待する姿>

- ・シェアタイムにおいて、自分から友だちに声をかけて話をする。
- ・全体交流において、友だちの発言に繋げて発言する。

(4) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考(評価規準)
1 めあてを知り、資料の範読を聞く。	10	<p>めあて うわさ話について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○うわさ話をされたことやしてしまったことを想起させ、経験を出させる。 ○資料を範読する。 ○うわさ話が森川君の気持ちやクラスの人々の気持ちをどう変えていったのかを整理し板書する。 <p><予想される子どもの考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・石山君やクラスの友だちは噂を信じて、仲間外しをした。 ・ぼくは、無口になった森川君を見て3学期が早く終わってほしいと思っていた。 	
2 本時の課題について考え、交流する。	25	<p>課題 うわさ話に惑わされないために大切なことは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを書かせる。 ○シェアタイムを持ち、自分の考えを交流させる。 ・友だちの考えと自分の考えを比べることや後の全体交流で繋げて発言させることを伝える。 ○意見を整理しながら板書する。 ○自分の考えと似た意見が出た時は、付け加えさせる。 	<p>・うわさ話に惑わされないようにするために大切なことについて記述し、発言している。</p> <p>【理解・判断力】</p>
3 まとめをする。	5	<p>まとめ うわさ話に惑わされないためには、()が大切。</p> <p><予想される子どもの考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・止める勇気 ・本人に確かめること ・周りの考えに振り回されないこと 	
4 本時の振り返りをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り<視点C>を書かせる。 	

互見授業を実施する中で、シェアタイムについて、再度共通認識を図り研修を深めていく必要性が見えてきた。まず日常の授業の中でシェアタイムを位置づける意義や、シェアタイムの捉え、教師のねらい等を確認しながら整理していった。次にシェアタイムの位置づけとそのねらい、期待する子どもの姿を出し合い整理した。そして、整理したことを基に、日常実践を積み上げていくことを確認した。

＜シェアタイムを授業に位置づける意義＞

- ・本校の児童の課題である、限定的になっている人間関係を解消したい。
- ・誰とでも関わり合える児童の育成をねらいたい。
- ・「わからない」をそのままにしない。

＜シェアタイムの捉え＞

- ・授業中、自席に留まらず自由に立ち歩き相談したり、話し合ったりしてもよい時間。
- ・誰とでも関われる人間関係の構築をねらう。

2 対話を生み出す場の設定

(1) フラワータイム

本校の研究テーマである「友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子どもの育成」をめざして、「人間関係づくりプログラム」を朝の帯活動に位置付け、全校で取り組んでいる。

年度初めの職員研修では、活動の目的を明確にするとともに指導事項を「共通ルール」として①「おねがいします」と「ありがとうございました」のあいさつをする。②相手を見て、うなずきながら聴く。③否定せず、最後まで聴く。と設定した。また、低中高の子どもたちの発達段階を考慮したエクササイズの年間計画をたてた。そして、毎週火曜日の朝の活動時間の15分に全学級で取り組んでいる。

継続して学級で進めることで「自分の話を聞いてくれるのでうれしい。」「友だちとたくさん話ができたと、知らなかったことを知ることができたからよかった。」という感想が出された。

なかよし班での取組は、年間3回を予定し、1学期の1回目は「名前(名刺)集めゲーム」に取り組んだ。2学期には「バースデーライン」を予定し、同じ班のなかまのことを知ること、3学期にはアドジャンを予定し同じ班のなかまのことを詳しくしることを目的として取り組む。1回目の活動後の子どもたちの振り返りには、「1・

2年生とたくさん話す機会がないので、ゆっくり話できてよかった。」「高学年が大きな声で言ってくれたのでわかりやすかった。」という言葉をどの班からも聞くことができた。指導にあたった職員からは、「高学年が優しい言葉づかいをしていて、低学年をリードしようとしていた。」「上級生が下級生に教えたりお手本になろうとしたりしていた。」などの振り返りが見られた。日頃から、班活動には取り組んでいるものの、相手を知る機会を設定していくことの大切さを再認識することができた。



(2) なかよし班を中心とした取組

① なかよし班集会

児童会を中心に企画、運営を行う「なかよし班集会」は、1学期に班対抗のスポーツ集会、2学期にお店集会を行っている。各班の6年生がリーダーとなり、活動を通して上級生が下級生に教えたり助け合ったりするなかで、協力する態度を養うことを目的として取り組んでいる。

1学期のなかよし班集会では、ボールやフープなどを活用し、リレー形式でつないでいく「なんでもリレー」、「玉入れ」に取り組んだ。上級生が下級生にそれぞれの競技のコツや方法を教えたり、指示を出したりしながら練習を進めている姿が見られた。自分たちの種目の練習をしながら、ペアで声をかけあう姿も見られるようになった。また、練習や本番のあとに「振り返り」を行い、がんばったことやよかったことの感想を出し合った。その中で、「〇〇さんが教えてくれてうれしかった」「最後まであきらめずにがんばっていてよかった」「玉入れてみんなが一生懸命投げてたくさん入ってうれしかった」などの感想が出された。この集会を通して班の友だちの名前を覚えて仲良くなり、上級生としての意識も感じる事ができた。



② あいさつ運動

毎学期、朝のあいさつ運動を1週間ずつ順番に行っている。1学期と3学期は学級ごとに、2学期はなかよし班ごとに取り組んでいる。なかよし班を3グループにわけて(6年生が話し合って決める)前日に当番の人の確認をしたり、あいさつの号令をかけたりと上級生がリーダーとなってあいさつ運動を行っている。



今年は、1学期に学級ごとであいさつ運動に取り組んだが、1年生は初めてだったので同じなかよし班の6年生と一緒にいった。その結果、1年生もあいさつ運動をどうすればいいかわかりやすかったこと、大きな声であいさつをして取り組むことができたなどの効果が見られた。

④ なかよし班そうじ

異学年交流の充実に向けて、毎週木曜日の掃除をなかよし班で取り組んでいる。なかよし班でのつながりをより日常的に取り入れ、互いのよさを知り相手を尊重する心を養ったり、上級生の掃除に取り組む姿を見せたり、上級生が下級生に教えたりすることにより高学年のリーダー性を養うことを目的としている。掃除場所の分担や掃除のやり方など、積極的に声をかけたり教えたりする場面が多く見られている。



④ 花植え集会



なかよし班で協力して花を植え、継続してお世話をしていくことで植物を大切にしようとする心を育てることを目的とし、前期に2・4・6年生、後期に1・3・5年生で取り組んでいる。今年は、児童と園児が触れ合う機会とするために花植え集会に幼稚園児も一緒に参加している。上級生が下級生に花の植え方を優しく教えたり、花を植えた後のプランターを一緒に運んだりする姿が見られた。また、各班で育てた花は校区の施設にも贈呈し、地域とのつながりを深めている。

3 租税教室

第1学年 租税教室

実施日： 2024年6月17日（月）

授業のねらい：税について、紙芝居を聞きどんなものに税金が使われているのかを考えることによって、自分たちの暮らしが税金によって支えられていることを知ることができる。

1 硬貨当てクイズを行う。

- ・硬貨の見本を提示し、何円玉かをあて、生活の中での経験について話す。

2 「ダナのもり ものがたり」（紙芝居）の読み聞かせを聞く。

- ・みんなが気持ちよく暮らすために、お金を出し合って、犬のお巡りさんやあひるの消防士を雇ったことを確かめる。

3 「ダナのもり ものがたり」を聞いて、暮らしと税金が関連していることを知る。

- ・紙芝居の中で、みんなで出し合ったお金を人間の世界では「税金」と呼ぶことをおさえる。

4 学習の振り返りをする。

- ・学習して感じたことや、新たに発見したことを発表する。



第2学年 租税教室

実施日： 2024年6月17日（月）

授業のねらい：税について、紙芝居を聞きどんなものに税金が使われているのかを考えることによって、自分たちの暮らしが税金によって支えられていることを知ることができる。

1 硬貨当てクイズを行う。

- ・硬貨の見本を提示し、何円玉かをあて、生活の中での経験について話す。

2 「ダナのもり ものがたり」（紙芝居）の読み聞かせを聞く。

- ・みんなが気持ちよく暮らすために、お金を出し合っ、犬のお巡りさんやあひるの消防士を雇ったことを確かめる。

3 「ダナのもり ものがたり」を聞いて、暮らしと税金が関連していることを知る。

- ・紙芝居の中で、みんなで出し合ったお金を人間の世界では「税金」と呼ぶことをおさえる。

4 学習の振り返りをする。

- ・学習して感じたことや、新たに発見したことを発表する。



第3学年 租税教室

実施日： 2024年6月17日（月）

授業のねらい：税について、紙芝居や税金ドリルを用いて自分たちの身の回りの税や公共施設を知ることによって、みんなが幸せに生活するために大切なものだと気づくことができる。

1 消費税を知る。

- ・百円均一ショップで買い物をしたときの代金から消費税について知る。

2 税と公共施設について知る。

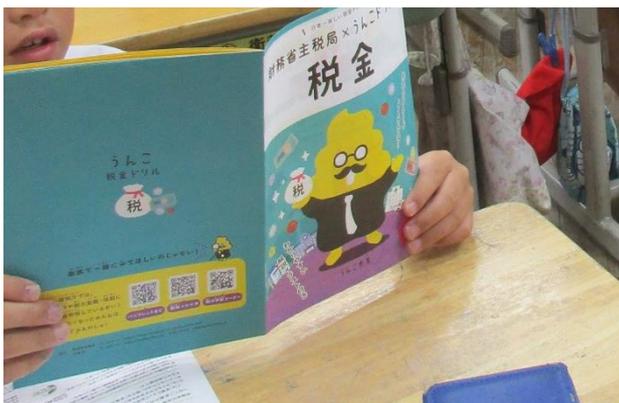
- ・税のデジタル紙芝居「みんなのためだから」を視聴し、どのようにして税や公共施設ができたのかを知る。
- ・自分たちが使っている教科書にも税金が使われていることを知る。
- ・みんなが幸せに生活するために必要なもの（公共施設を含む）を考える。

3 身の回りの税や公共施設について考える。

- ・「うんこ税金ドリル」を用いて、問題を解きながら身の回りの税や公共施設について知り、自分たちの生活に深く結び付いている大切なものにとらえる。

4 ふりかえりをする。

- ・本時の学習でわかったことをふりかえり、発表する。



第4学年 租税教室

実施日： 2024年 6月20日(木)

授業のねらい：税について、税金の名前や使われ方を考えることで、みんなが安心して暮らせるために必要なものだと理解することができる。

1 税金について知る。

- ・子どもたちが知っている税金の名前を発表し、その税目を「国税」「地方税」に分けて板書する。
- ・税金の名前と何に税金がかかっているのかを知る。

2 税金は何につかわれているのか考える。

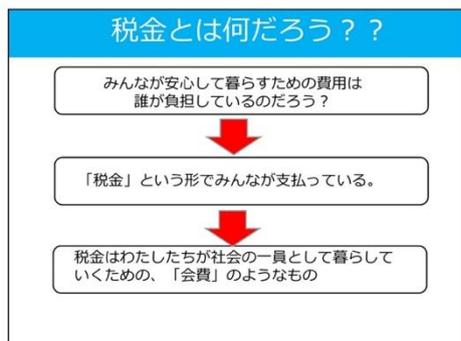
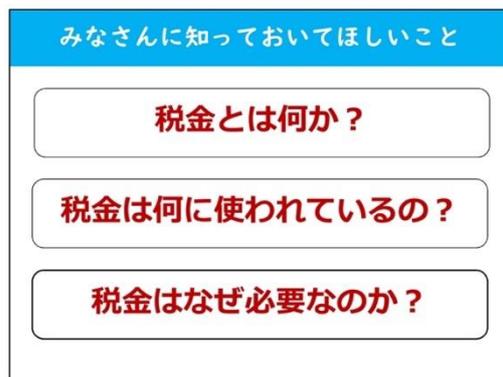
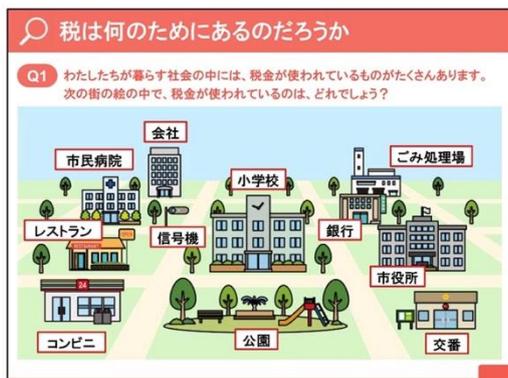
- ・公共施設や公共サービスなどに使われていることを想起させ、理解を深めさせる。

3 税金はなぜ必要なのかを考える。

- ・人々の生活の安全を守ることや、人々のために役立つものに使われていることを知る。

4 学習のまとめをする。

- ・税の種類と税の大切さについて話し、まとめにつなげる。



第5学年 租税教室

実施日： 2024年 6月20日(木)

授業のねらい：税について、税金の名前や使われ方を考えることで、みんなが安心して暮らせるために必要なものだと理解することができる。

1 税金について知る。

- ・子どもたちが知っている税金の名前を発表し、その税目を「国税」「地方税」に分けて板書する。
- ・税金の名前と何に税金がかかっているのかを知る。

2 税金は何につかわれているのか考える。

- ・公共施設や公共サービスなどに使われていることを想起させ、理解を深めさせる。

3 税金はなぜ必要なのかを考える。

- ・人々の生活の安全を守ることや、人々のために役立つものに使われていることを知る。

4 学習のまとめをする。

- ・税の種類と税の大切さについて話し、まとめにつなげる。

🔍 税は何のためにあるのだろうか

Q1 わたしたちが暮らす社会の中には、税金が使われているものがたくさんあります。次の街の絵の中で、税金が使われているのは、どれでしょう？

みなさんに知っておいてほしいこと

税金とは何か？

税金は何に使われているの？

税金はなぜ必要なのか？

税金とは何だろう？？

みんなが安心して暮らすための費用は誰が負担しているのだろうか？

↓

「税金」という形でみんなが支払っている。

↓

税金はわたしたちが社会の一員として暮らしていくための、「会費」のようなもの

🔍 税は何のためにあるのだろうか

公立学校の児童・生徒一人当たりの年間公費負担額（令和2年度）
普段通っている学校で使う用品や施設のほか、教科書の無償配付などにも、税金が使われています。皆さんのためにどのくらい使われているか、確認してみましょう。

(全国平均)

 小学生 約975,000円	 中学生 約1,122,000円	 高校生(全日制) 約1,063,000円
----------------------	------------------------	-----------------------------

※ 出所：文部科学省「令和3年度地方教育費調査（令和2年度）」
もっとくわしく 動画で学ぼう「マリンとヤマト不思議な日曜日」<https://yosudu.be/mv/d24h06/> (国税庁作成動画)
『今年のお金』<https://yosudu.be/d24x02h06m/> (国税庁作成動画)

第6学年 租税教室

実施日： 6月20日（木）

授業のねらい：公平な税金の集め方や税金の使い方について、さまざまな集め方を比べたり模擬選挙を行ったりすることで理解することができる。

1 税金の集め方について考える。

- ・学校図書室にエアコンを導入するという事例を用いて、どのように集めるのが良いのかを考える。

2 さまざまな方法を比べ、検討し、まとめる。

- ・<同じ金額ずつ><利用者負担><能力に応じて><皆から同じ割合で>という4つの方法を比べる。

3 架空の町の町長選挙（模擬選挙）を行う。

4 選挙事務担当者になり、開票作業を行う。



IV 研究の成果と課題



IV 研究の成果と課題

「ふるさとを愛し、心身ともにたくましく未来を切り拓く力をもった子どもの育成」という本校の教育目標のもと、2年間租税教育の視点から研究してきた。大分県における租税教育のねらい「租税に関連した事項を通して郷土についての関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として自主的に判断し行動するための諸能力を育てる」を＜郷土愛＞＜集団の一員としての態度＞＜税の学習＞という3点に研究の方向性を絞った。さらに、本校の児童の実態であった「友だち関係が限定的になっている」ことや「自分の考えに自信が持てない（自己肯定感の低さ）」からさらに＜集団の一員としての態度＞の観点に重点を置き、租税教育の研究に取り組むことを決めた。以下に、本研究での成果と課題を記す。

対話を生み出す場の設定

学校行事や授業の中で、「対話」を意識した取組を進めてきたことで教職員が、子どもどうしの対話の場の作り方や関わらせ方を意識することが増えたことは大きな成果と言える。教師主導で進めるのではなく、子どもたちが互いに考え話し合いながら、行事を成功させようとしたり意見を伝え合ったりする場面が多く見られた。

シェアタイムの設定

今年度は、授業におけるシェアタイムのあり方について多くの研修の時間を割いた。授業者はどのような意図を持ってシェアタイムを設定するのか、授業のどの場面でシェアタイムを設定するのかについて議論しあった。授業者のシェアタイムの活用について授業者の意図に応じた場面で活用できることや、様々な目的を設定することができることなど、理解を深められたことは大きな成果といえる。また、どの授業者も授業の中でシェアタイムを位置づけ、授業の中で学級のなかまづくりをしようという意識を持つこともできた。

子どものアンケート結果より

子どもたちのアンケート結果を以下に記す。

アンケート項目	23年度 学期	24年度 学期
考えを友だちと伝え合うことができた。	93.6%	98.6%
友だちのいいところを見つけることができた。	88.1%	90.1%
自分のいいところに気づくことができた。	72.5%	76.7%

本校の児童の実態として、自分の考えに自身を持てないことや、自己肯定感の低さが課題としてあった。シェアタイムで伝え合う場を設定することで、自分の考えを話したり友だちの考えを聞いたりする経験を積むことができた。そのため、考えを伝え合うことに慣れ、子どもたちは互いに考えを伝え合うことができるようになった。さらに、授業者や担任が「なかまづくり」を意識的に取り組むことで、友だちのいいところを見つけることもできるようになったと考えられる。また、対話的な活動を行うことでそれを友だちに伝え、自分のいいところにも気づくことにつながったのだと考える。授業だけでなく、行事の中でも対話的な活動を増やし、友だちのいいところに気づく視点を示し、伝え合う活動を増やしたことで学級のみの活動に留まらず、全校で統一した活動を行うことができた。

また、税の学習として税務署の方を講師に租税教室を年1回実施した。租税教室では、教科に位置付け

た税の学習と関連させながら、より深い内容に迫ることができた。「今までは、税金はただ支払わなければならないものと思っていたが、税金の大切さがわかった。」「税金があるおかげで、私たちの生活が安心して安全に過ごせることがわかった。」「税金が皆の役に立っていることが分かった。」など、税金の大切さと必要性に改めて気づき、振り返る子どもたちが多かった。

課題

授業研究における中心を「集団の一員としての態度」と位置付け、シェアタイムのあり方を追求していくなかで、子どもたちの自己肯定感や自己存在感を感じられるよう研究を進めてきた。授業者の意図を明確にしなが、どんな状態で子どもたちが活動をしていくのかを追求した。しかし、シェアタイムの設定場面や教師のねらい、どのような状態をめざすのかが授業者によってさまざまであること、授業者によって取り入れられるシェアタイムが固定化されていることなどが課題として明らかになってきた。今後、授業者の意図や子どもたちのシェアタイムのあり方について授業構想の段階でより具体化できるようにしていきたい。また、子どもたちの学級への所属意識を高め、自己肯定感を高めるための手段の一つとしてシェアタイムを位置付けてきたが、さらに子どもたちの自己肯定感を高めていけるよう、シェアタイムを中心に授業から子どもたちに働きかけていきたい。

おわりに

大分県租税教育推進協議会より委嘱を受け、「友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝えられる子どもの育成～共に課題解決をめざす学級集団づくり～」を研究主題として、2年間の研究に取り組んでまいりました。

本校では、「シェアタイム」を実践の一つの柱として取り組みました。子どもたちは自分の思いを表現する機会を得ると同時に、自分の意見を表現し、友だちの意見や感情を尊重する経験を重ねることができました。また、教職員は、授業の中で「どの場面で」「どんな視点を持って」「どのような手法で」シェアタイムを取り入れていくのかを考え、互いに授業を見合うことで、個々の授業力向上にもつながりました。

友だちの思いを受け止め、自分の思いを伝える力を育むことは、子どもたちの成長において非常に重要です。これらの能力は、租税教育の基盤を形成し、子どもたちが社会に貢献するための土台となります。ともに課題解決をめざす集団づくりは、友だちとの関係性を深めるだけでなく、税金についての理解を深め、社会に対する責任感を育むための重要な手段です。将来的には、こうした子どもたちが社会で積極的に参加し、自らの意見を持ち、表現することができるように成長していただきたいと思います。

これからも、子どもたちが互いに理解し合い、共に成長できる環境を整える努力を続けていく必要があります。友だちとの関係性を大切にし、社会の一員としての意識を高めることで、子どもたちがより良い未来を築いていくことを期待しています。

最後に、本研究が、今後の租税教育の一助となり、さらに多くの子どもたちの成長に寄与することを願っています。

豊後大野市立三重東小学校
教頭 釘宮直和

研究同人

令和5年度

【指導・助言】

大分県教育庁義務教育課 指導主事	小野 智博
竹田教育事務所 次長	安東 憲雄
豊後大野市教育委員会 指導主事	岡田 亮二
大分税務署 税務広報広聴官	納 香保利
税務広報広聴官	力徳 知展
税務広報広聴官	黒木 康平

【研究同人】

校長 原田 悦子	教頭 重石 智慎	麻生智恵子	朝倉 香代
阿南 吉浩	三代あけみ	廣末伊智郎	生野 由紀
後藤利江子	園田 恵子	山口 忠夫	清水 大徳
勝尾 育代	矢野あゆみ	平川 麻衣	大西 賢吾
廣川 史織	天沼 惟太	戒田 直樹	河合優希奈
後藤いづみ	玉田有希子	堀 逸郎	重藤 祥子
後藤 葉月	佐々木さや香	木崎 麻実	河辺 直巳
小野 希	足立 美穂	坂本 萌	藤田 佳奈
河野みゆき	穴南 智華		

令和6年度

【指導・助言】

大分県教育庁義務教育課 指導主事	小野 智博
竹田教育事務所 次長	後藤 直子
豊後大野市教育委員会 指導主事	岡田 亮二
大分税務署 税務広報広聴官	力徳 知展 (～6月)
税務広報広聴官	黒木 康平 (～6月)
大分税務署 税務広報広聴官	前岡まゆみ (7月～)
税務広報広聴官	尾形 邦広 (7月～)

【研究同人】

校長 原田 悦子	教頭 釘宮 直和	朝倉 香代	阿南 吉浩
三代あけみ	生野 由紀	後藤利江子	園田 恵子
山口 忠夫	清水 大徳	宮崎 大輔	平川 麻衣
衛藤 直哉	大西 賢吾	廣川 史織	飯干 志織
古本 明里	河合優希奈	阿南 龍生	玉田有希子
三浦 直子	堀 逸郎	重藤 祥子	川邊 月瞳
佐々木さや香	佐田香世美	高山 浩明	釘宮 良子
河辺 直巳	小野 希	足立 美穂	藤田 佳奈
河野みゆき	穴南 智華		